



プレスのかで、未来にプラス。

2025年度決算報告

2026年5月27日 代表取締役 社長執行役員 浦西 信哉

1. 2025年度決算について
 2. 2026年度見通しについて
 3. 2026-2028年度 中期経営方針
-

2025年度決算について

得意先の減産影響および為替換算影響等により、

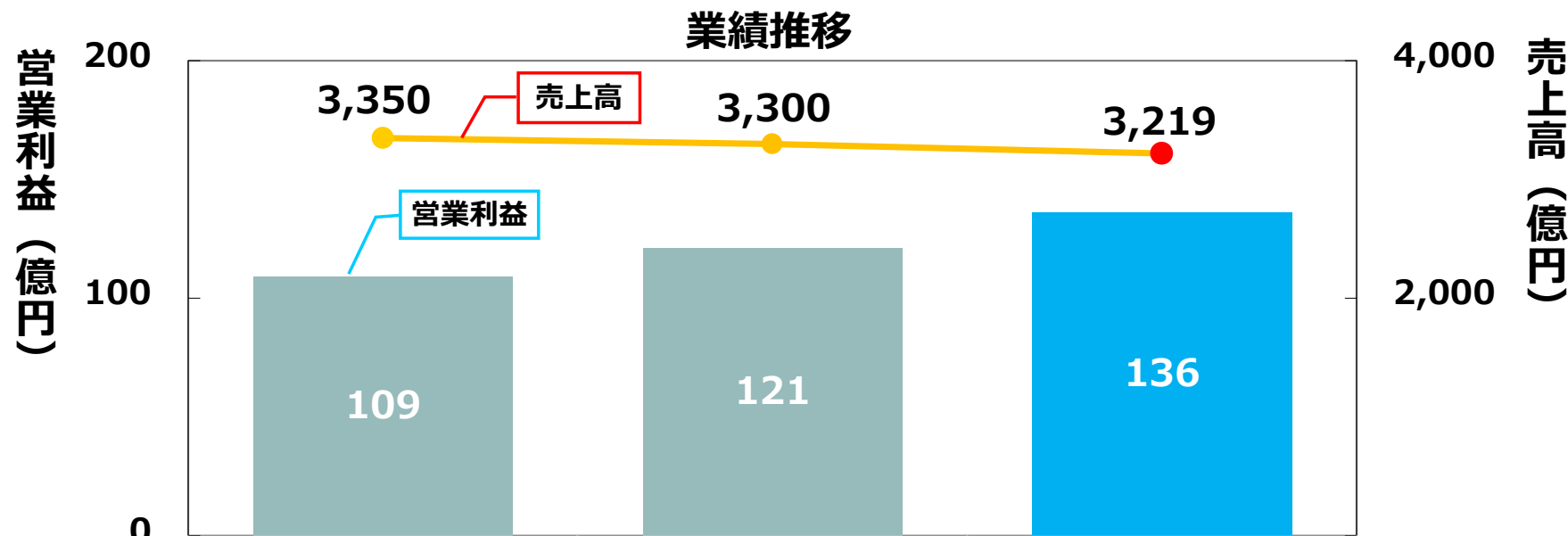
売上高は3,219億円と減収。

営業利益は、減価償却費の改善および中国における生産体制

の再構築による合理化効果等により、136億円と増益。

2025年度連結決算サマリー

- 売上高は、前年同期比 8.1 億円減収 (2.5%減)
- 営業利益は、前年同期比 1.5 億円増益 (12.4%増)



	2023年度	2024年度 (A)	2025年度 (B)	(B) - (A)
売上高	3,350	3,300	3,219	-81
営業利益	109	121	136	+15
経常利益	125	136	147	+11
親会社株主に帰属する当期純利益	52	-210	-83	+127

製品群別連結売上構成

(億円)

	2024年度		2025年度		売上高 増減額	構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比		
車体プレス部品	2,902	87.9%	2,862	88.9%	-40	+1.0%
精密プレス部品	338	10.2%	295	9.2%	-43	-1.0%
樹脂プレス部品	41	1.3%	45	1.4%	+4	+0.1%
その他	19	0.6%	17	0.5%	-2	-0.1%
合計	3,300	100%	3,219	100%	-81	-

得意先別連結売上構成（日産自動車関連）

- 日産自動車（日本）向け等の減少はあったものの、メキシコ日産、北米日産向け等の増加により、構成比は0.9%増加

(億円)

	2024年度		2025年度		構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連 小計	2,457	74.5%	2,427	75.4%	+0.9%
北米日産	489	14.8%	534	16.6%	+1.8%
メキシコ日産自動車	470	14.2%	529	16.4%	+2.2%
日産自動車（日本）	517	15.7%	429	13.3%	-2.4%
欧州日産自動車	294	8.9%	316	9.8%	+0.9%
東風汽車	280	8.5%	264	8.2%	-0.3%
ジャトコ（海外拠点含む）	186	5.6%	160	5.0%	-0.6%
日産車体	114	3.5%	98	3.0%	-0.5%
ルノー日産インドア/インド日産	37	1.1%	47	1.5%	+0.4%
マレリ（海外拠点含む）	45	1.4%	35	1.1%	-0.3%
タイ日産自動車	24	0.7%	14	0.4%	-0.3%
鄭州日産	1	0.0%	1	0.0%	0.0%

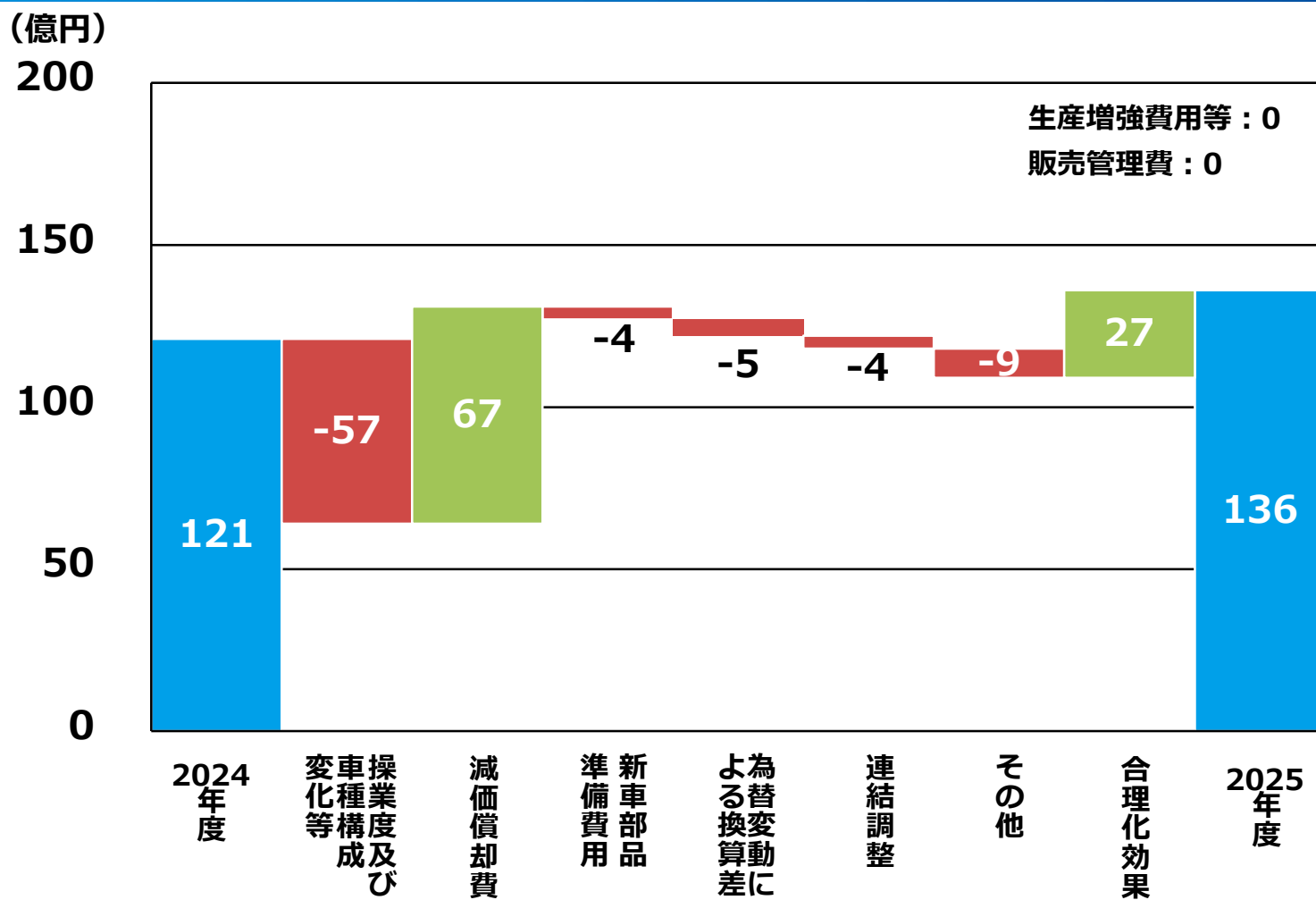
得意先別連結売上構成（日産自動車関連以外）

● NIO向け等の増加はあったものの、ルノー、ステランティス向け等の減少により、構成比は0.9%減少

	2024年度		2025年度		構成比 増減	
	売上高	構成比	売上高	構成比		
日産自動車関連以外の得意先 小計	843	25.5%	792	24.6%	-0.9%	
ホンダ	米国ホンダ	154.1	4.7%	150.2	4.7%	0.0%
	メキシコホンダ	40.2	1.2%	46.1	1.4%	+0.2%
	本田技研工業	32.2	1.0%	31.0	1.0%	0.0%
	インドネシアホンダ	12.1	0.4%	7.6	0.2%	-0.2%
三菱自動車工業（海外拠点含む）	139.9	4.2%	128.4	4.0%	-0.2%	
ルノー	ルノー	85.4	2.6%	71.6	2.2%	-0.4%
	ルノー日産インドア	13.8	0.4%	21.3	0.7%	+0.3%
アイシン（海外拠点含む）	45.8	1.4%	43.5	1.4%	0.0%	
ステランティス	51.8	1.6%	37.6	1.2%	-0.4%	
マツダ	マツダ	23.4	0.7%	23.5	0.7%	0.0%
	メキシコマツダ	13.9	0.4%	10.6	0.3%	-0.1%
ジャトコ（日産以外）（海外拠点含む）	22.5	0.7%	21.3	0.7%	0.0%	
NIO	0.3	0.0%	12.5	0.4%	+0.4%	
武蔵精密工業（海外拠点含む）	10.4	0.3%	11.4	0.4%	+0.1%	
ダイナックス（海外拠点含む）	13.9	0.4%	11.3	0.4%	0.0%	
SUBARU	12.9	0.4%	9.5	0.3%	-0.1%	
スズキ（海外拠点含む）	3.8	0.1%	9.1	0.3%	+0.2%	
豊田鉄工（海外拠点含む）	3.9	0.1%	3.7	0.1%	0.0%	
BYD	2.4	0.1%	3.6	0.1%	0.0%	
UDトラックス	2.8	0.1%	2.9	0.1%	0.0%	
日野自動車（海外拠点含む）	3.3	0.1%	2.1	0.1%	0.0%	
いすゞ自動車（海外拠点含む）	2.2	0.1%	1.8	0.1%	0.0%	
NSKワーナー	1.0	0.0%	0.8	0.0%	0.0%	

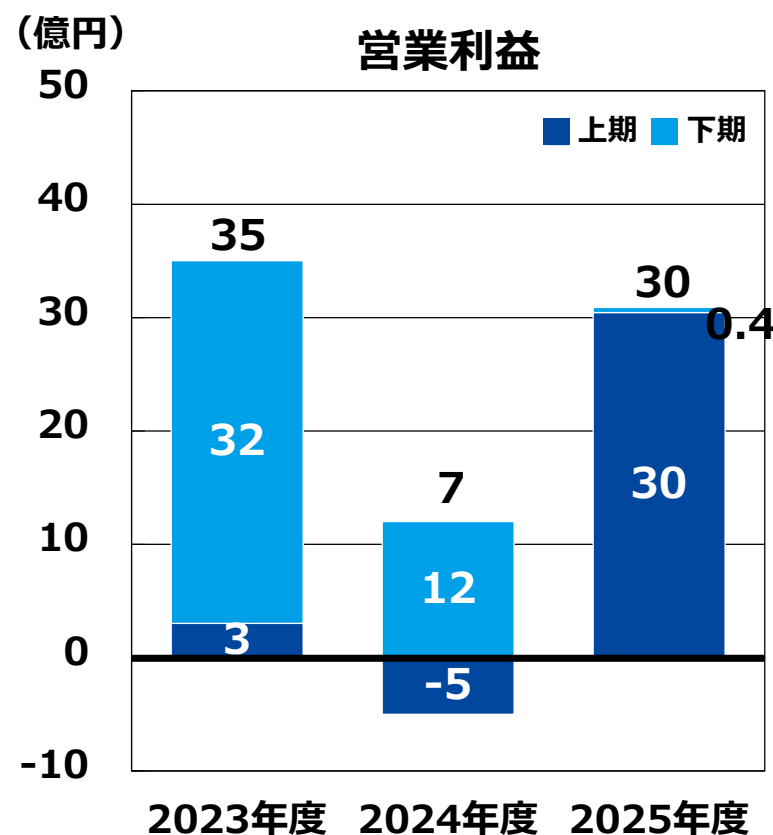
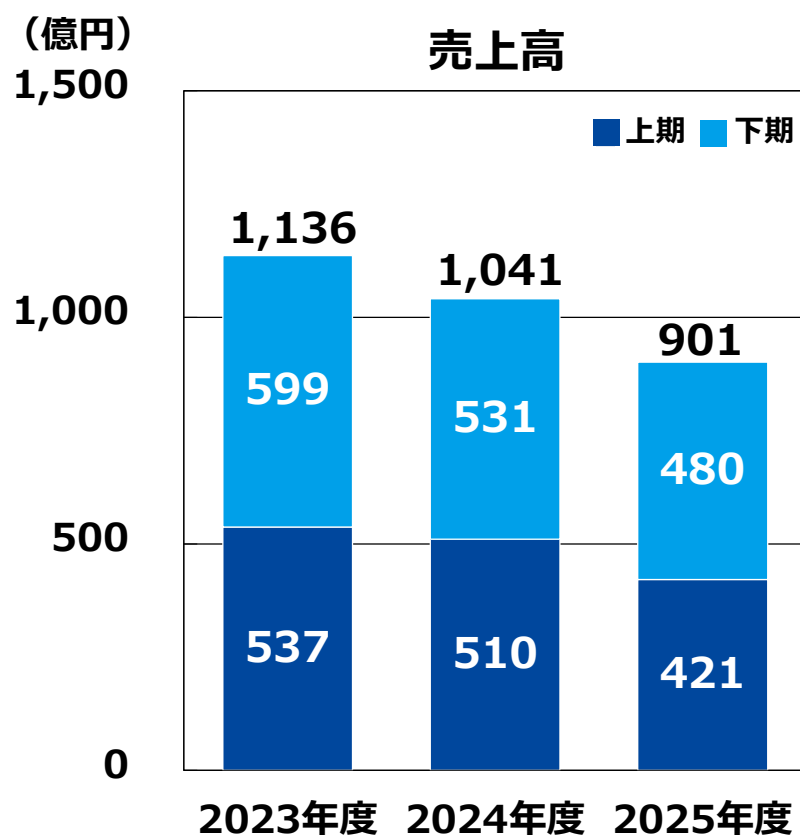
（億円）

営業利益の増減要因



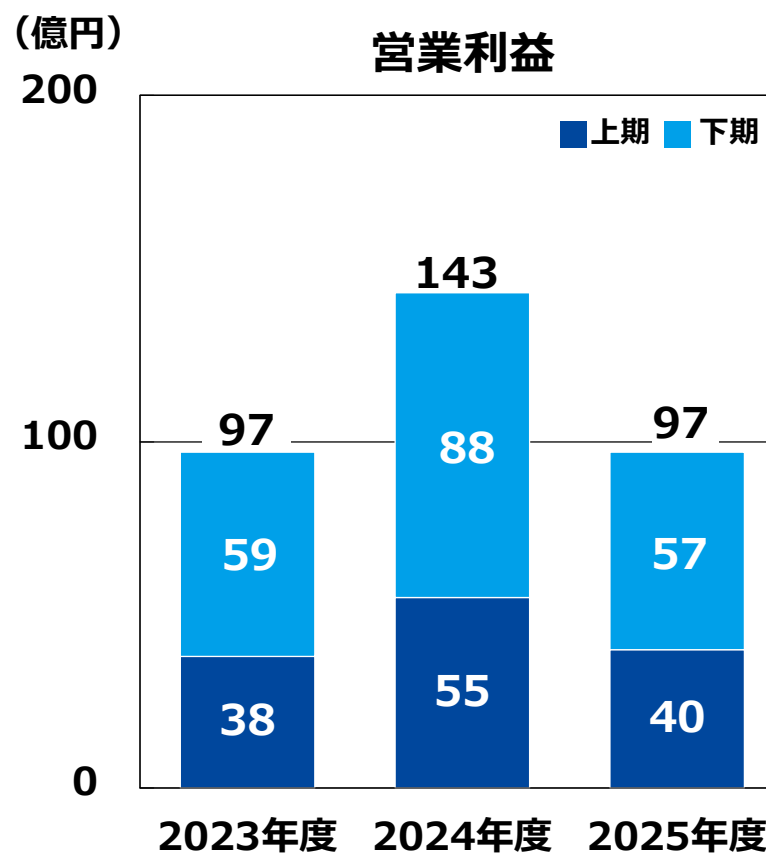
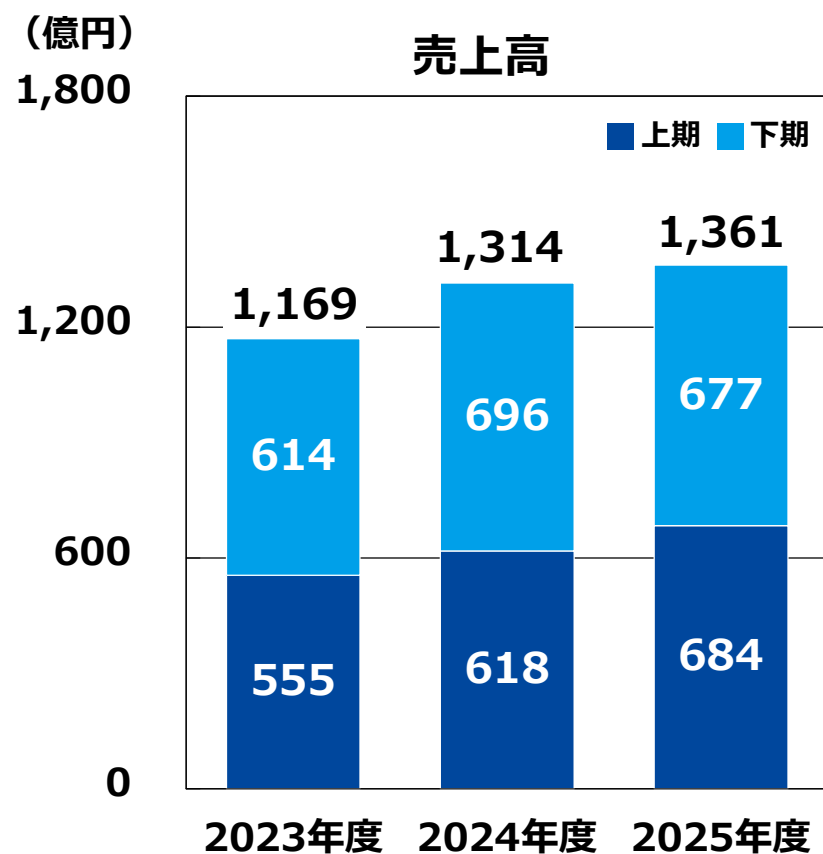
地域別売上高・営業利益（日本）

- 売上高は、得意先の減産影響等により、13.4%減収
- 営業利益は、売上減少の影響はあったものの、米国子会社との移転価格税制調整金の影響等により、23億円の増益



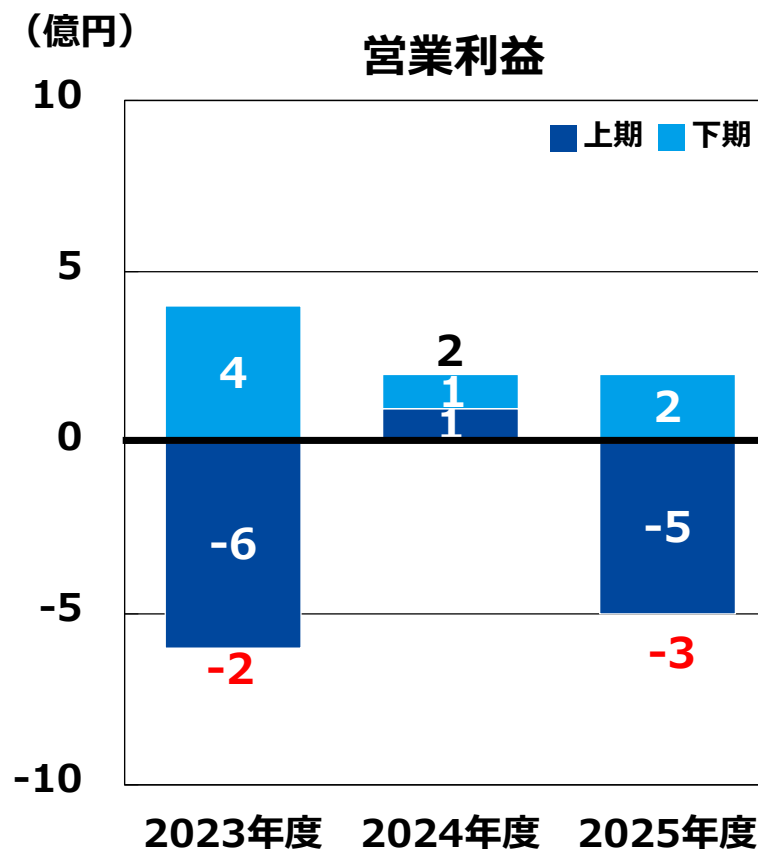
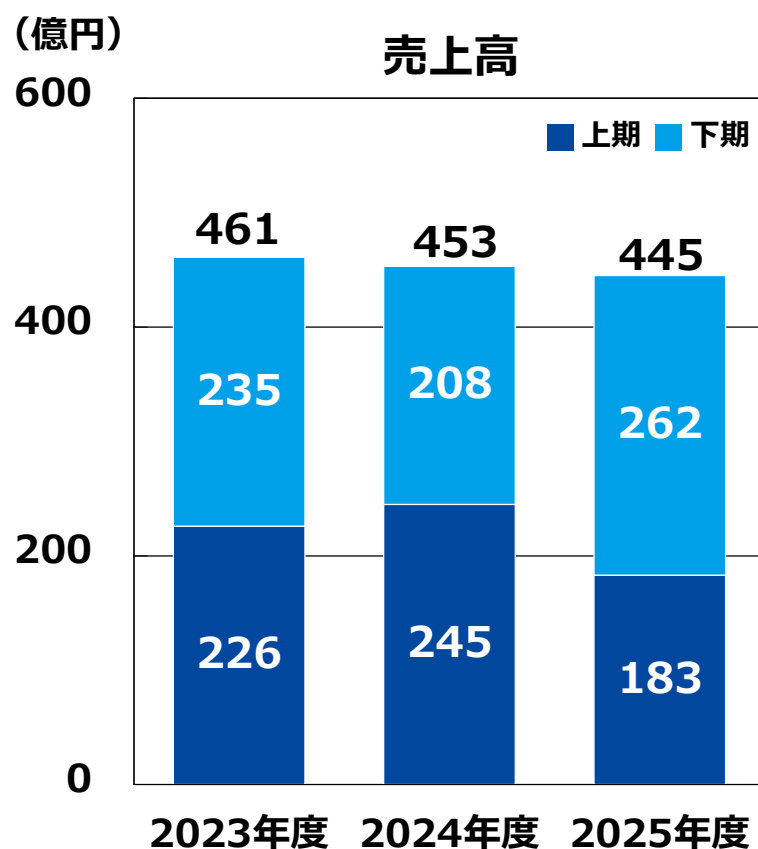
地域別売上高・営業利益（米州）

- 売上高は、為替換算影響等はあったものの、3.6%増収
- 営業利益は、移転価格税制調整金の影響等により、46億円減益



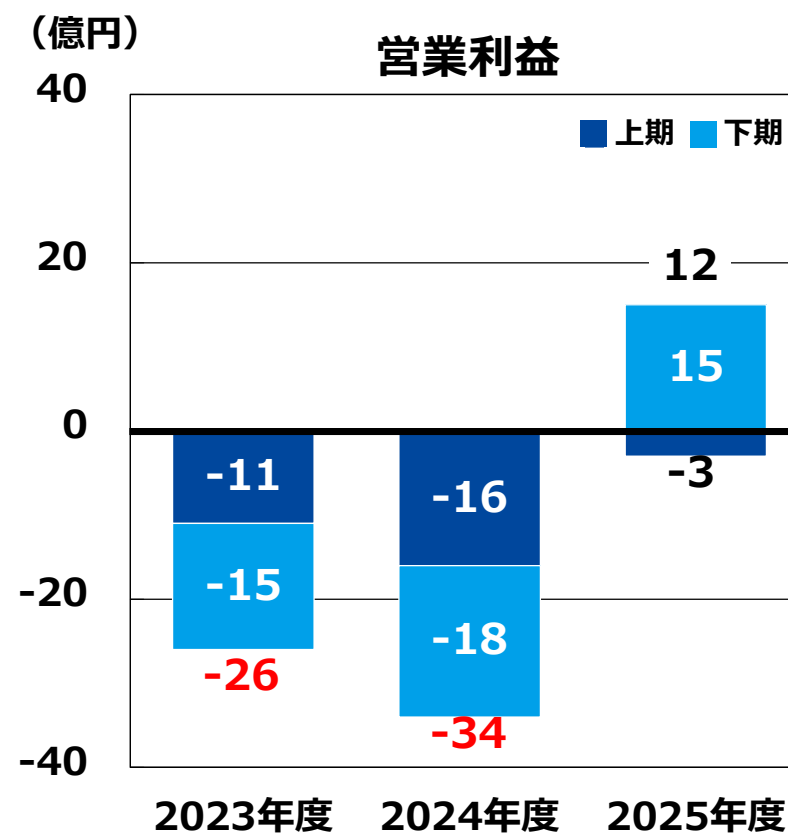
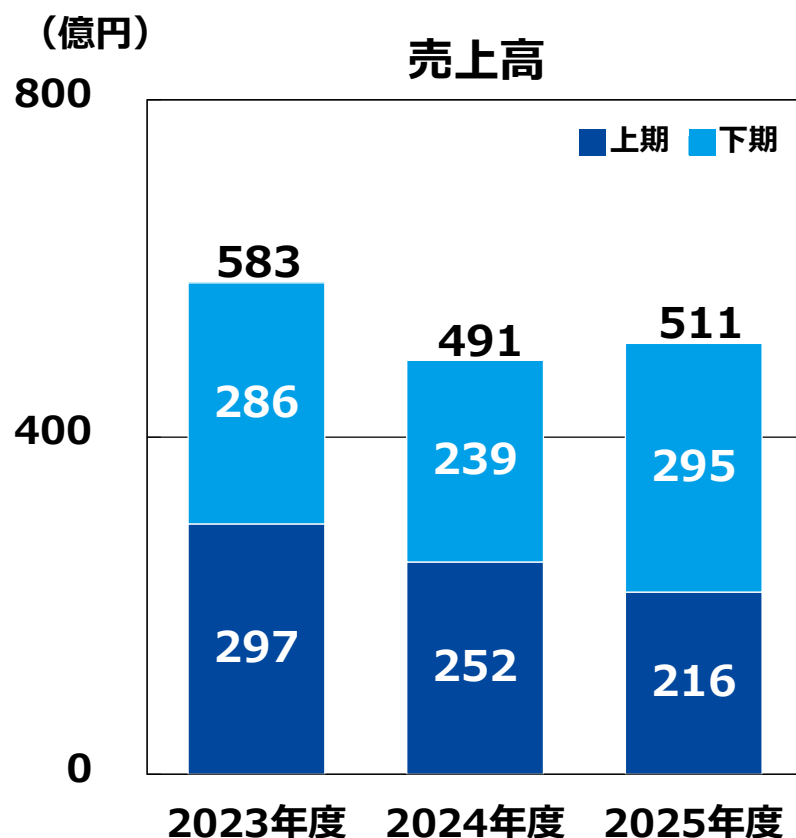
地域別売上高・営業利益（欧州）

- 売上高は、得意先の減産影響等により、1.8%減収
- 営業利益は、売上減少の影響等により、3億円損失



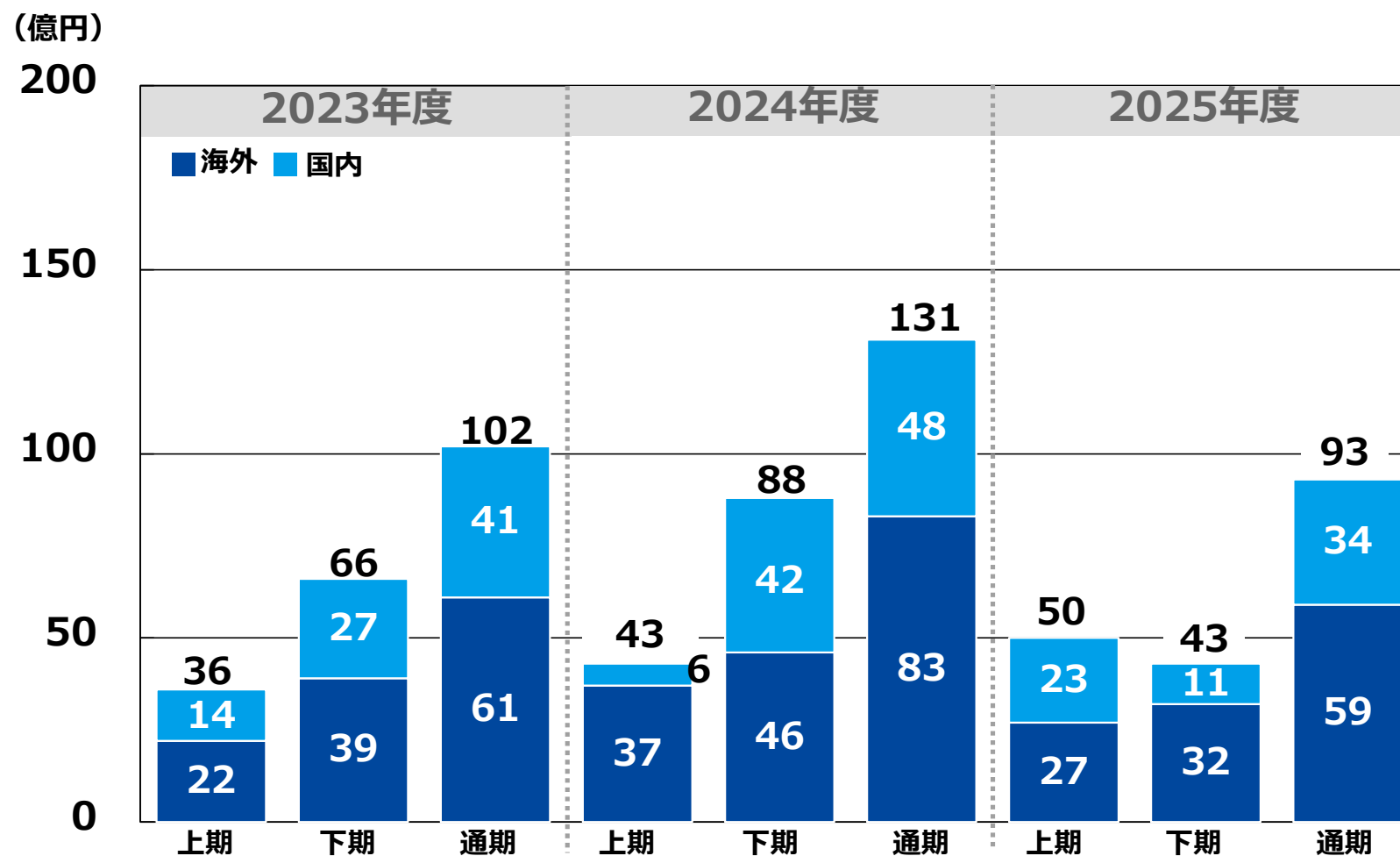
地域別売上高・営業利益（アジア）

- 売上高は、得意先の減産影響および為替換算影響はあったものの、金型の売上増加等により、4.0%増収
- 営業利益は、操業度の低下があったものの、減価償却費の改善等により、黒字へ転換



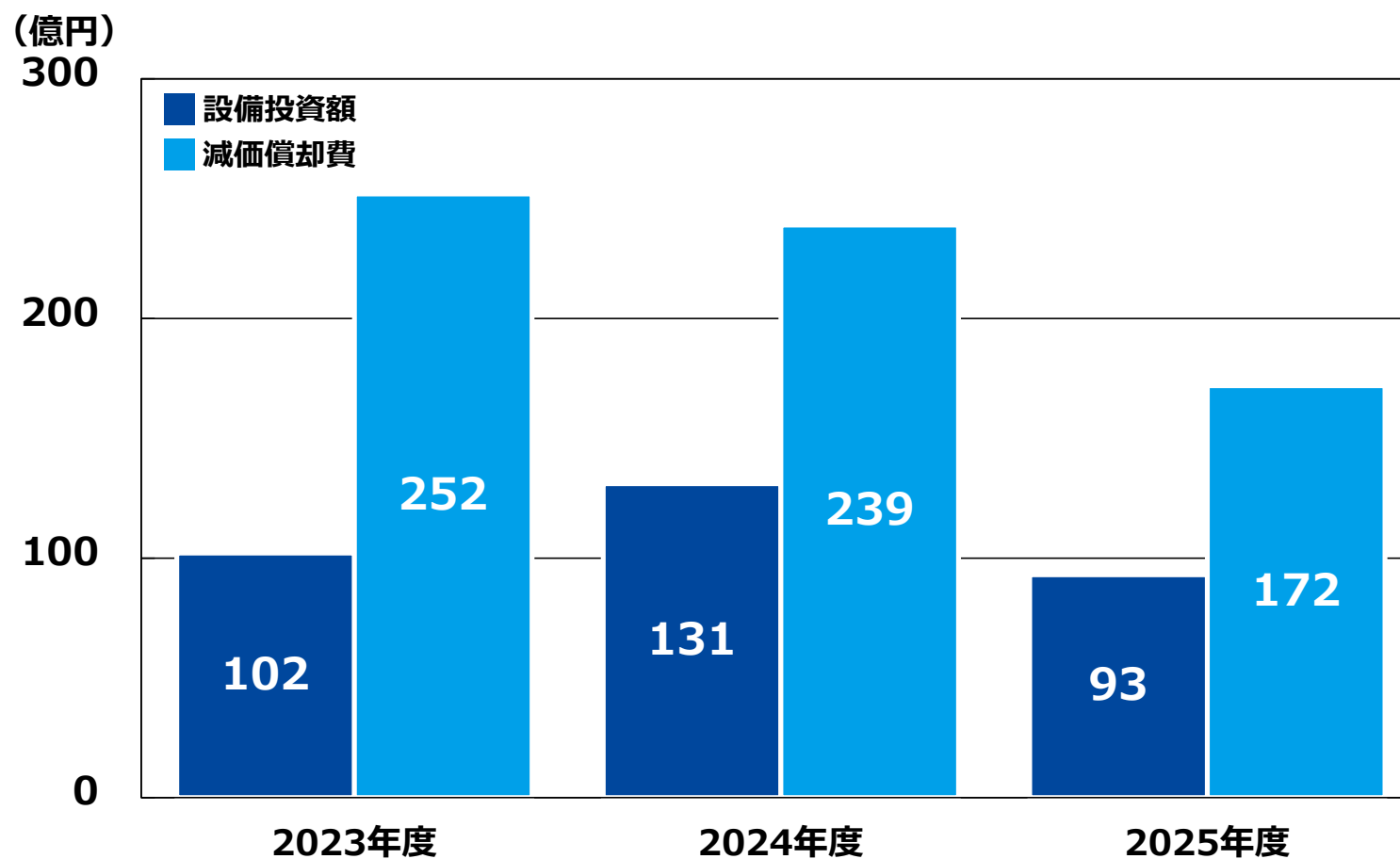
設備投資額の推移

- 設備投資額は、前年度に対して38億円減少（計画対比55億円減少）



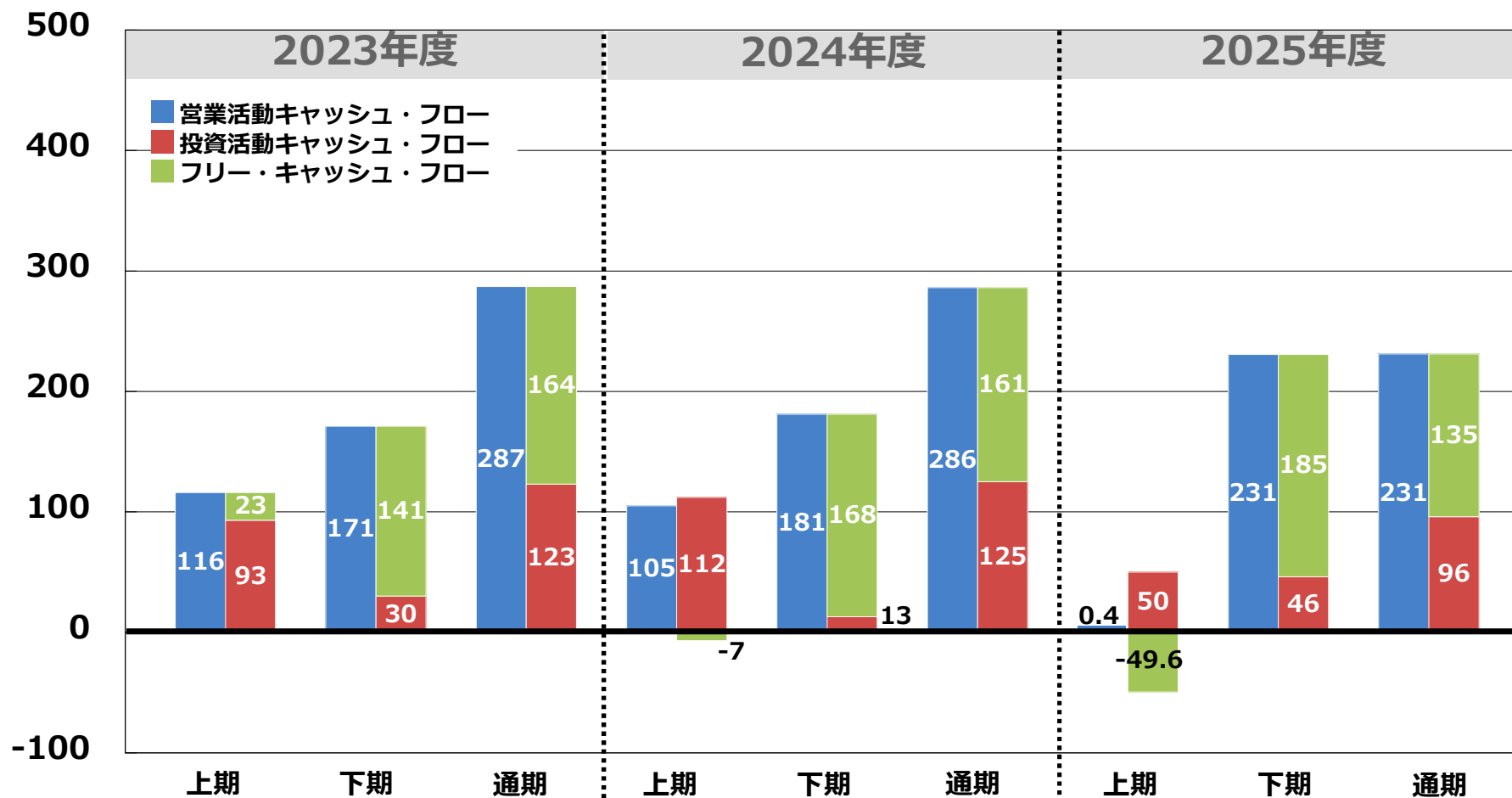
設備投資額・減価償却費の推移

- 減価償却費は、前年度に対して67億円減少（計画対比7億円増加）



キャッシュ・フロー

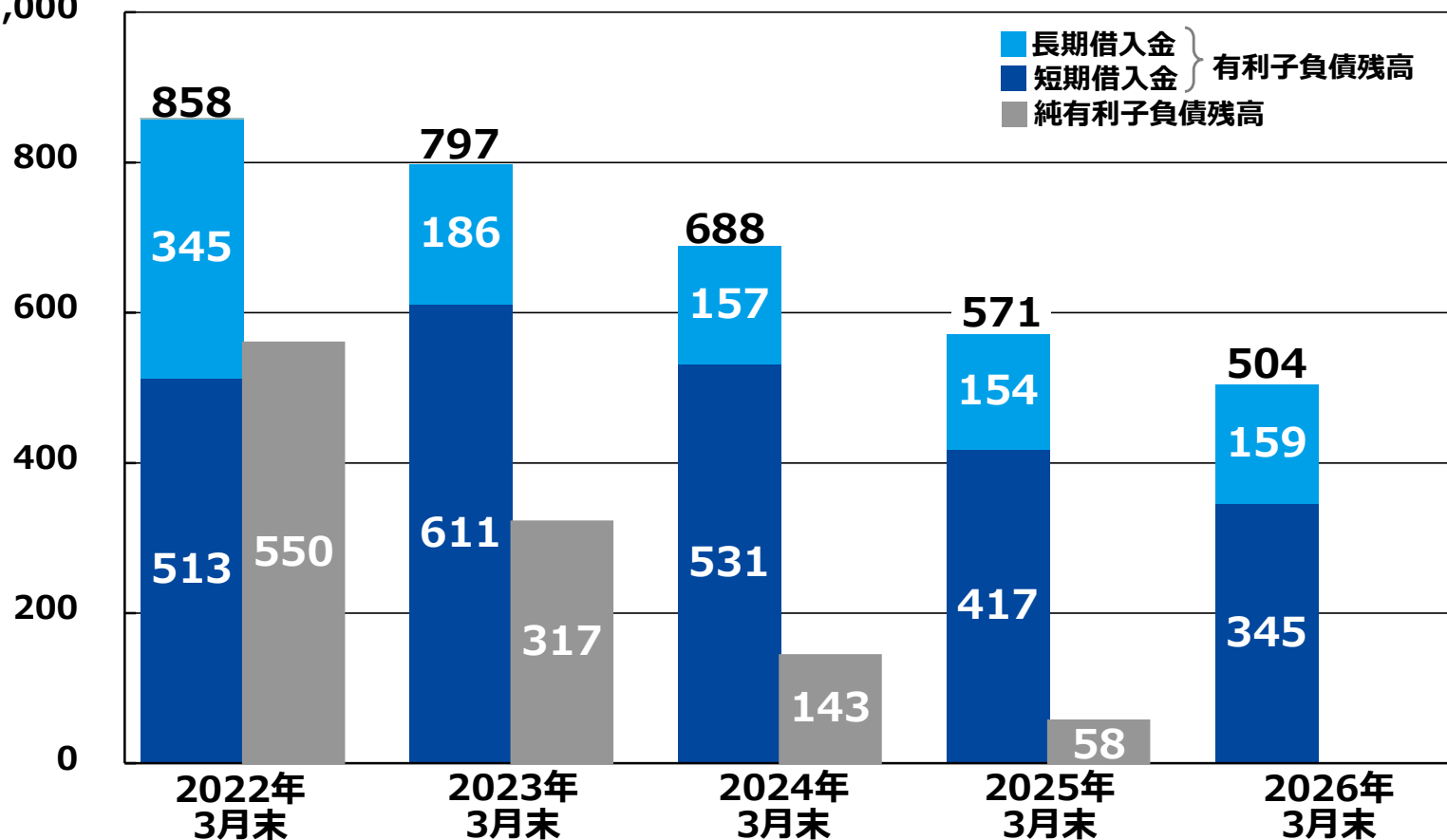
(億円) ● フリー・キャッシュ・フローは、135億円を確保



有利子負債・純有利子負債残高の推移

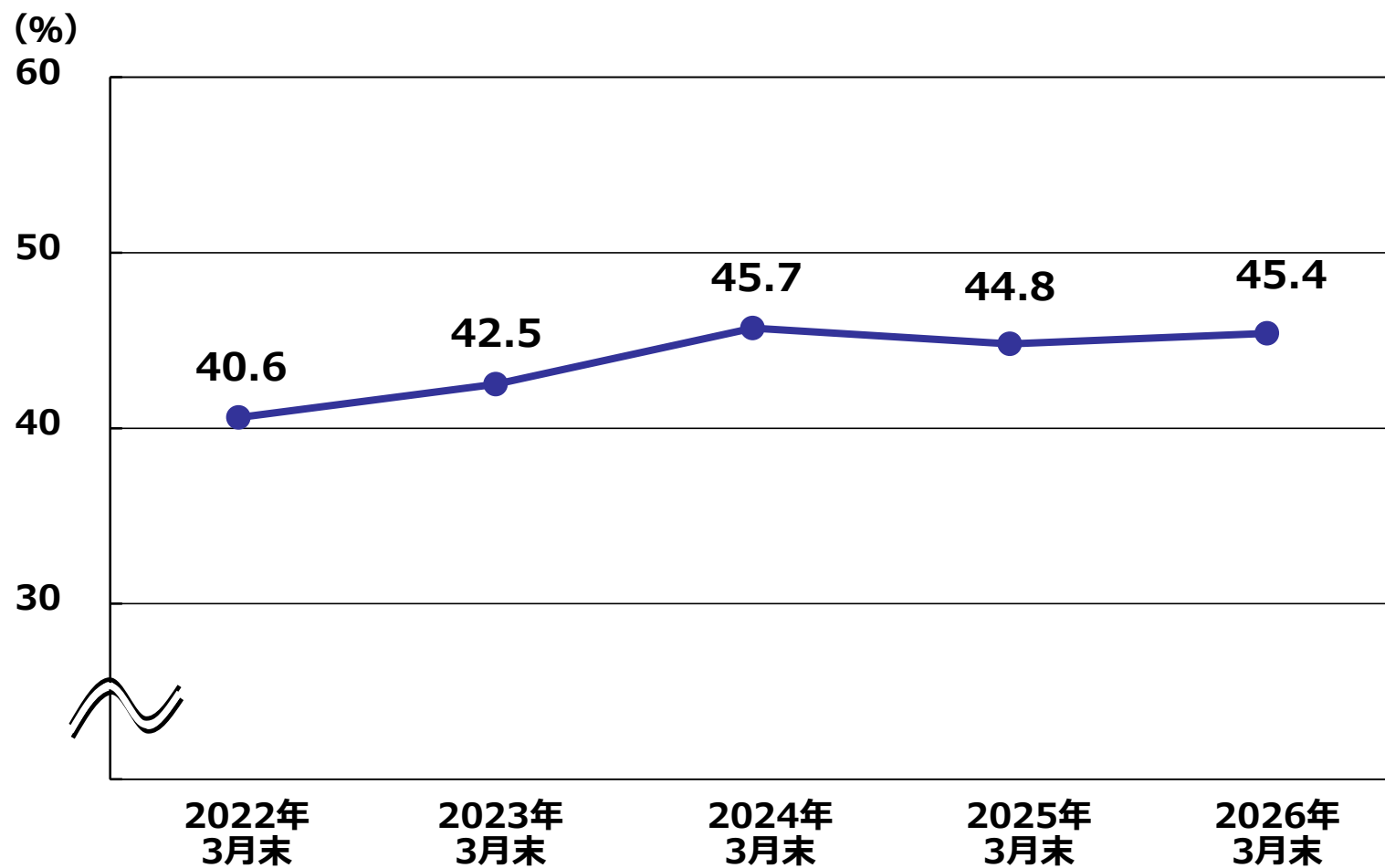
- 有利子負債は、前年度末に対して67億円減少
- 現預金を含めた純有利子負債は、大幅に改善し、実質無借金

(億円)
1,000



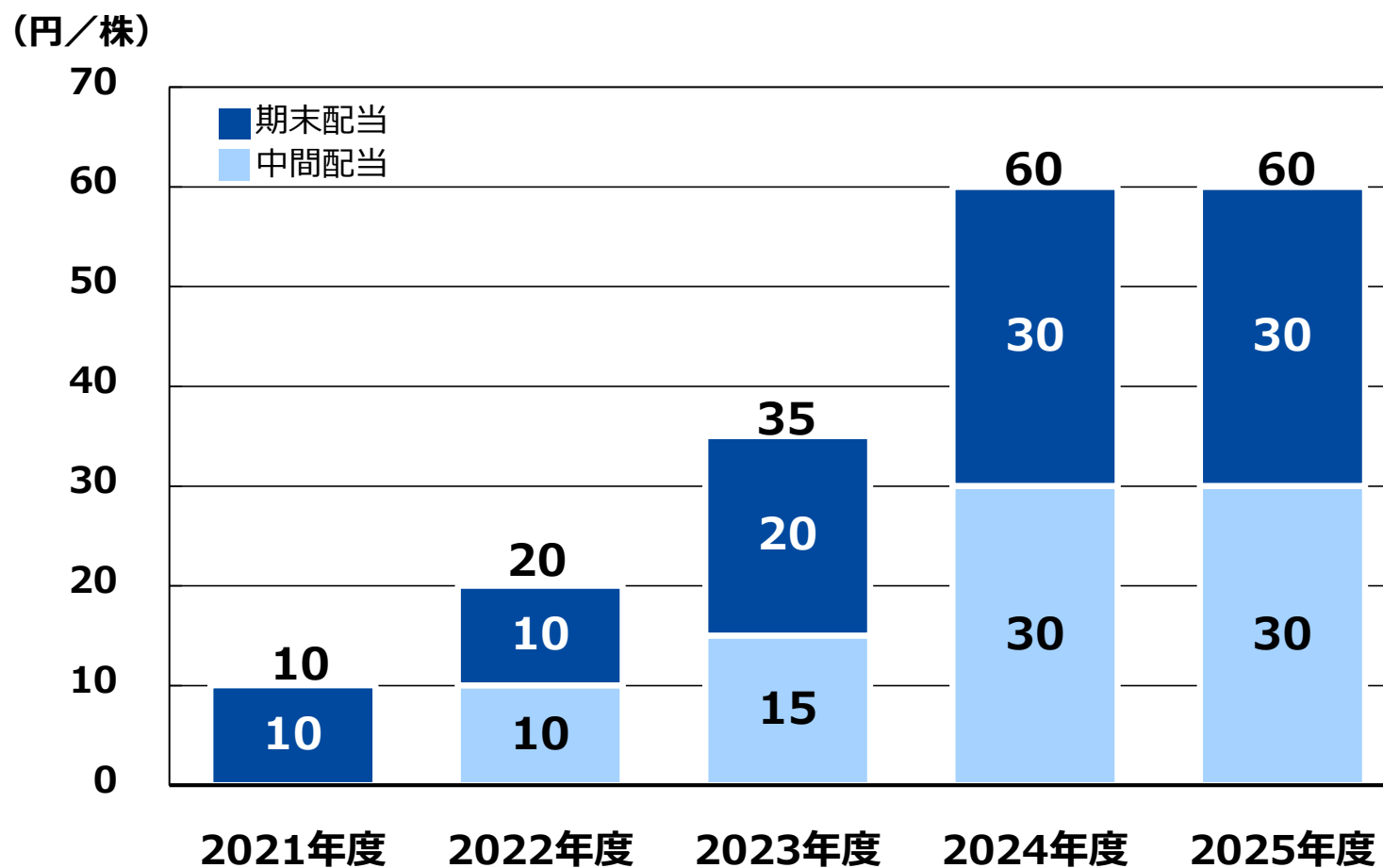
自己資本比率の推移

● 前年度末に対し、0.6%増の45.4%



配当金推移

- 2025年度は、1株当たり60円を維持

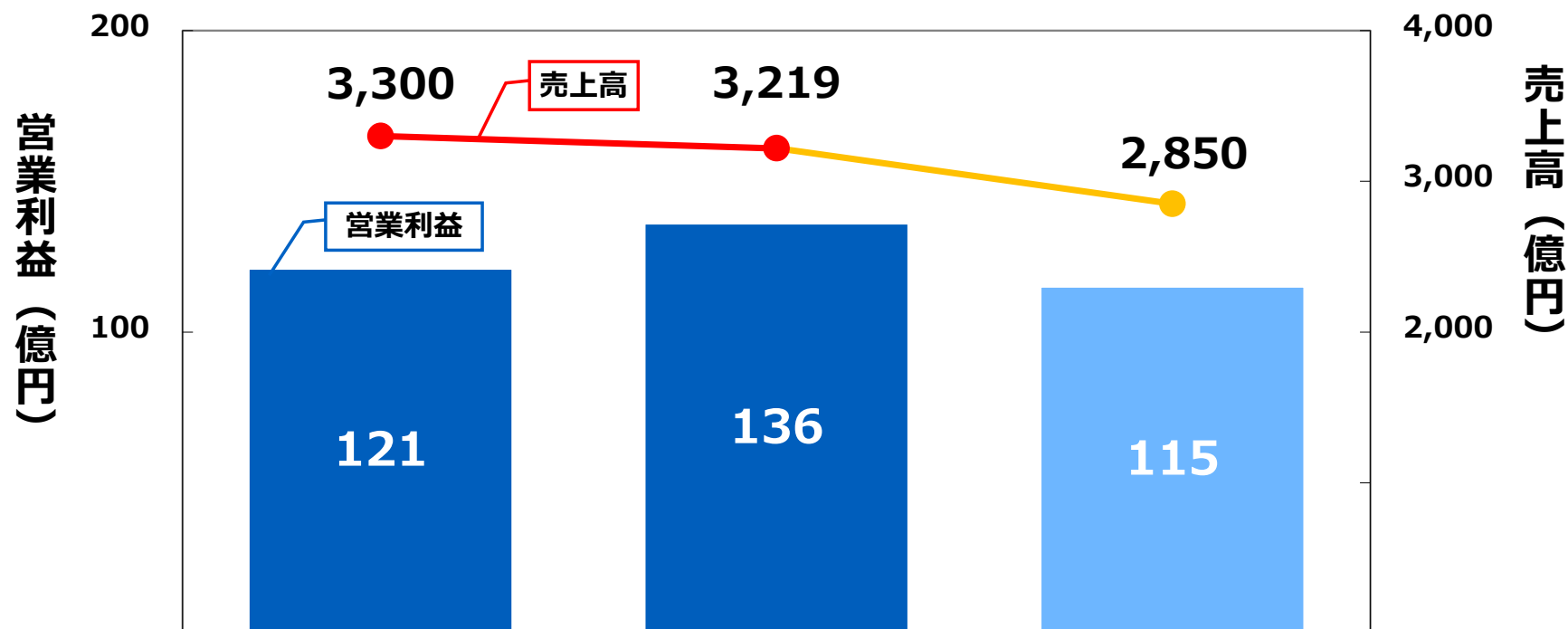


2026年度見通しについて

**1. 売上高は、金型売上の減少に加え、為替換算影響
および構造改革に伴う一部事業撤退等により、
減収見込み**

**2. 営業利益は、合理化の効果はあるものの、
売上減少の影響等により、減益見込み**

2026年度連結業績見通しサマリー



	2024年度	2025年度 (A)	2026年度 (B)	(B) - (A)
売上高	3,300	3,219	2,850	-369
営業利益	121	136	115	-21
経常利益	136	147	115	-32
親会社株主に帰属する当期純利益	-210	-83	45	+128

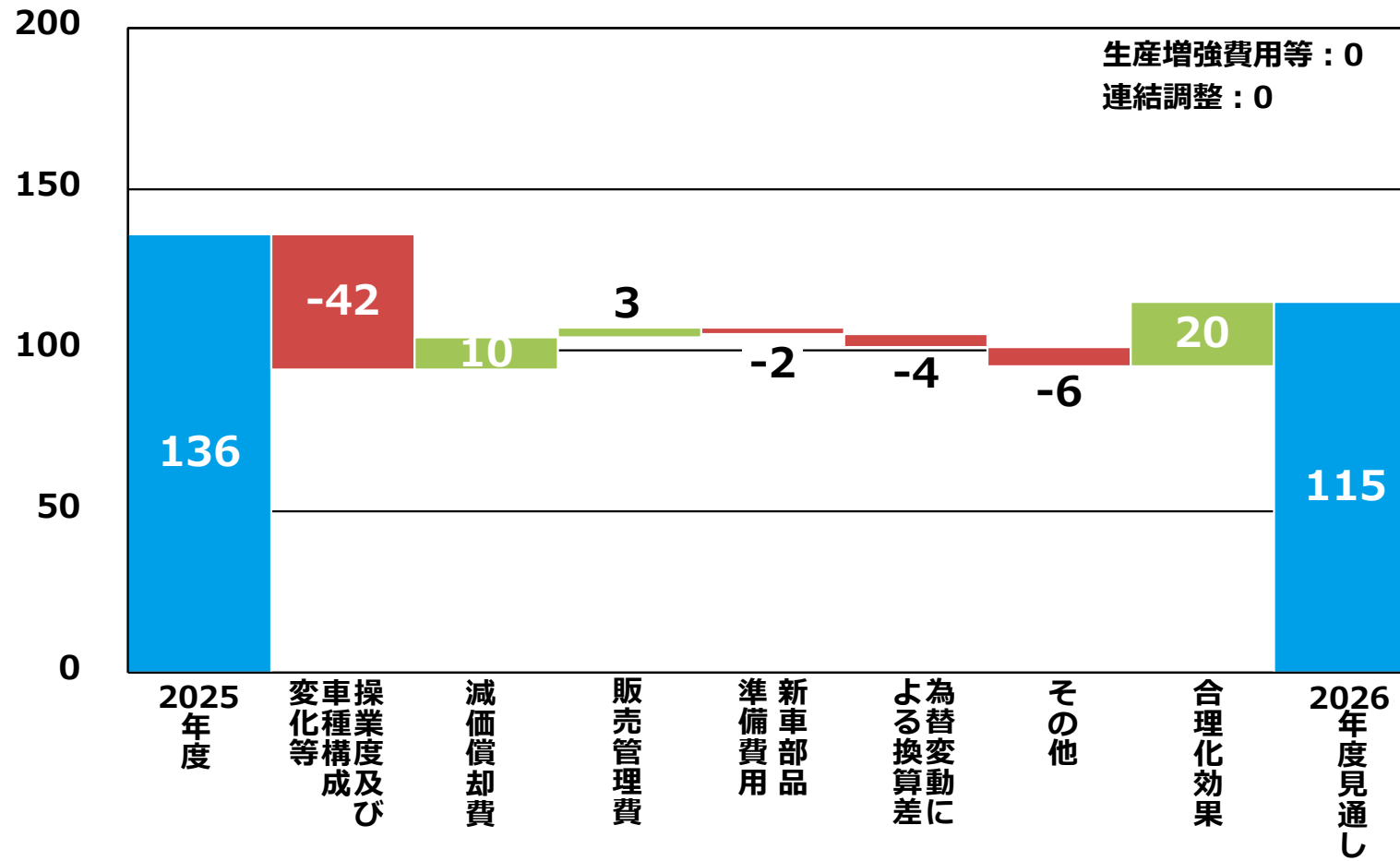
製品群別連結売上構成

(億円)

	2025年度		2026年度		売上高 増減額	構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比		
車体プレス部品	2,862	88.9%	2,581	90.6%	-281	+1.7%
精密プレス部品	295	9.2%	212	7.4%	-83	-1.8%
樹脂プレス部品	45	1.4%	42	1.5%	-3	+0.1%
その他	17	0.5%	15	0.5%	-2	0.0%
合計	3,219	100%	2,850	100%	-369	-

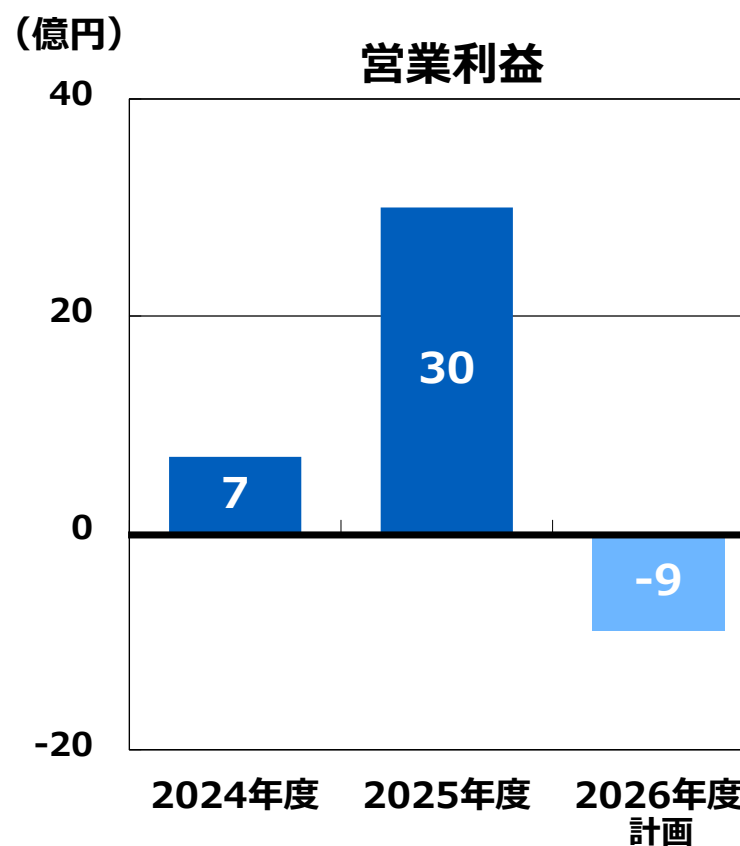
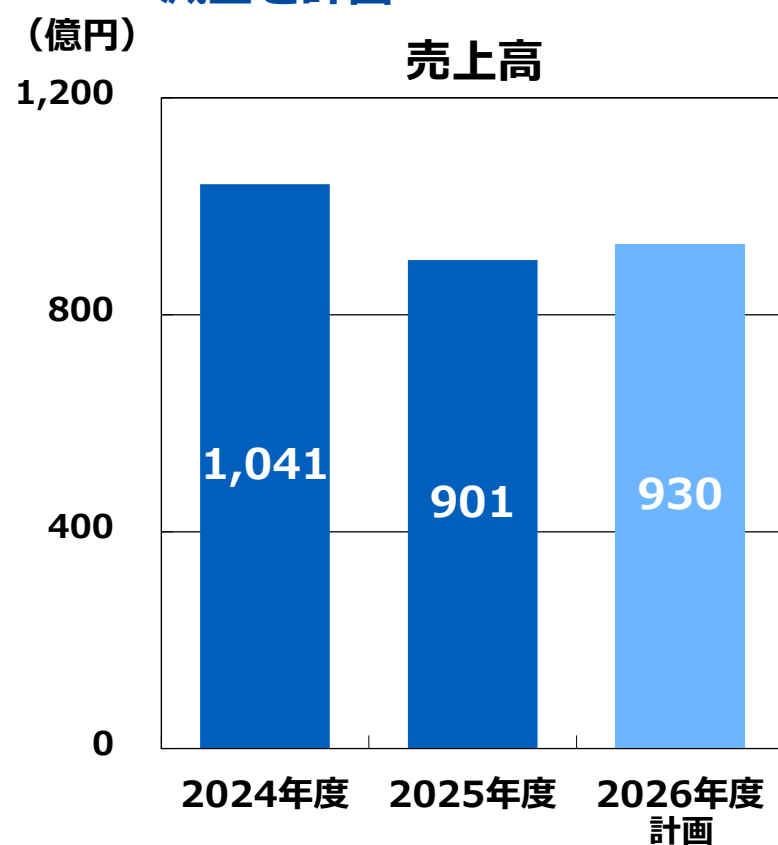
営業利益の増減見通し

(億円)



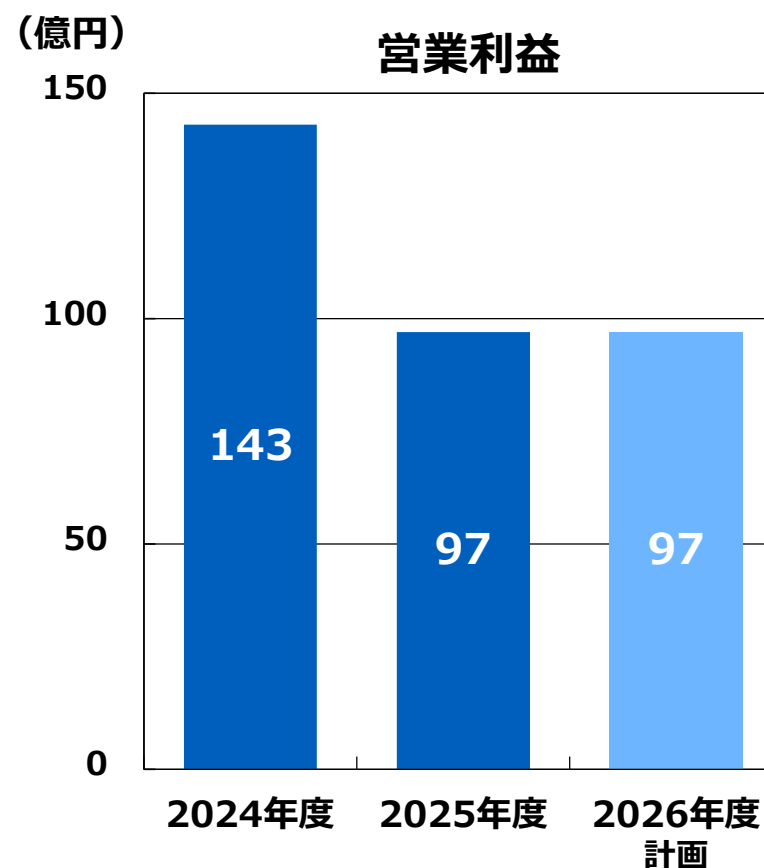
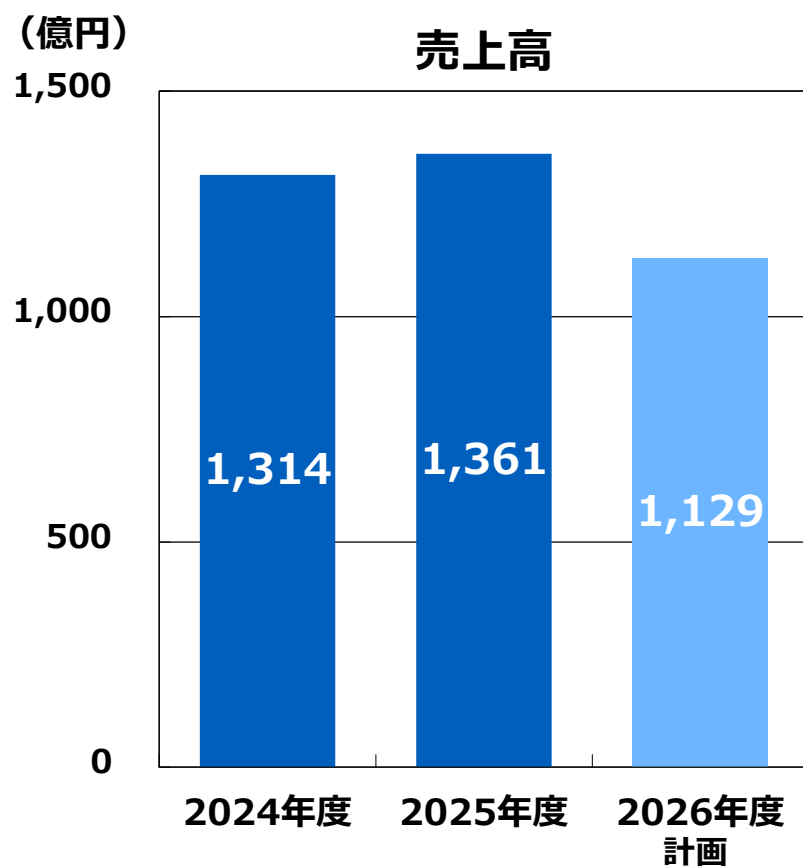
地域別売上高・営業利益（日本）

- 売上高は、得意先の増産影響等により、増収を計画
- 営業利益は、2025年度に実施した日米間での移転価格税制調整金の影響等により、減益を計画



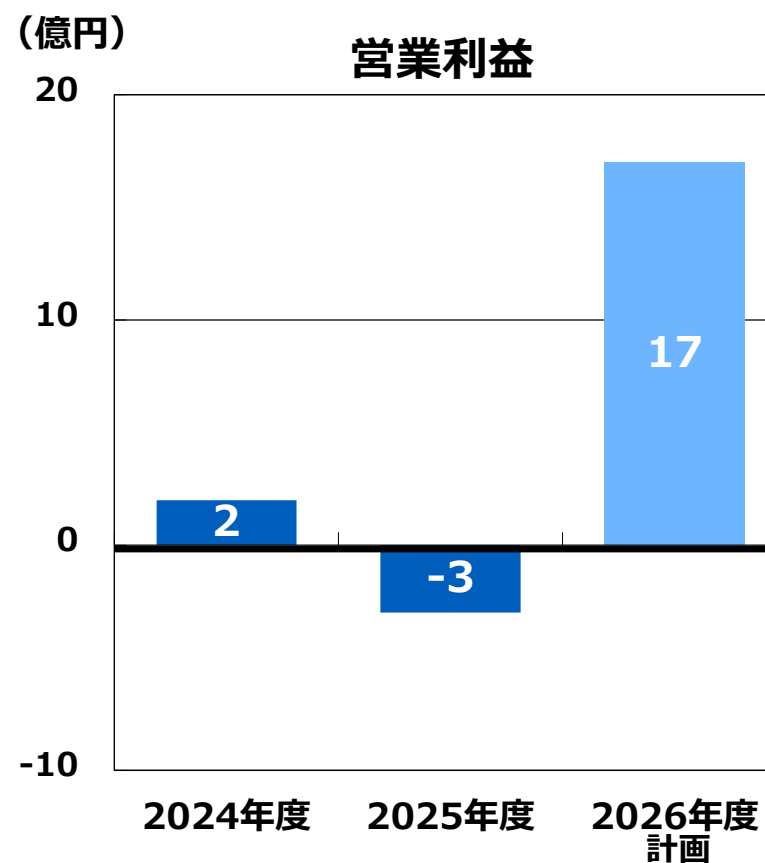
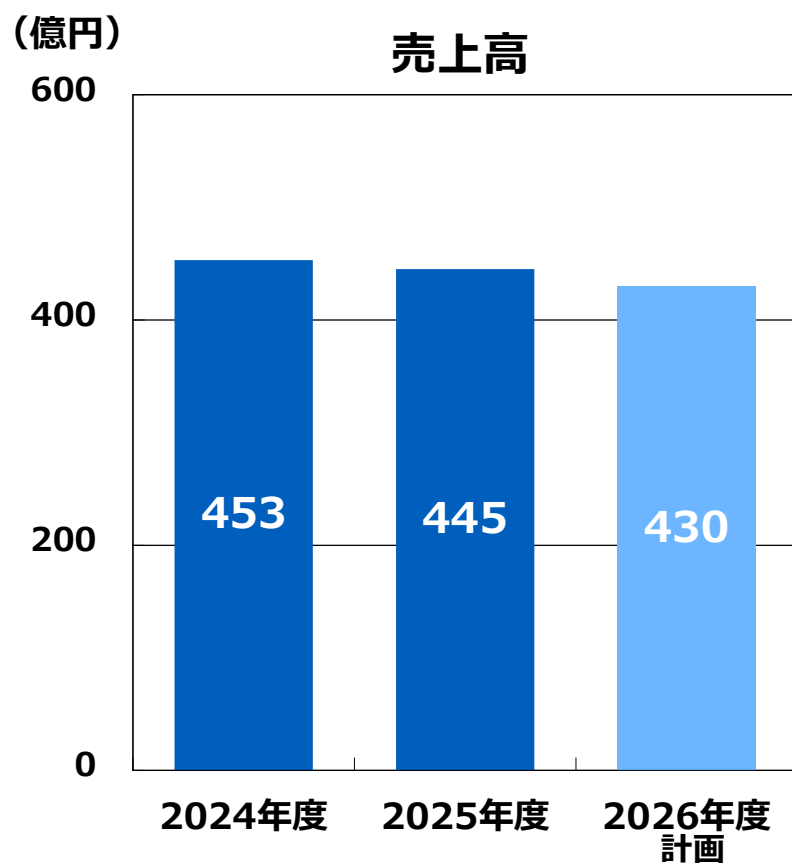
地域別売上高・営業利益（米州）

- 売上高は、得意先の減産影響等により、減収を計画
- 営業利益は、売上減少の影響等はあるものの、前年度並みを計画



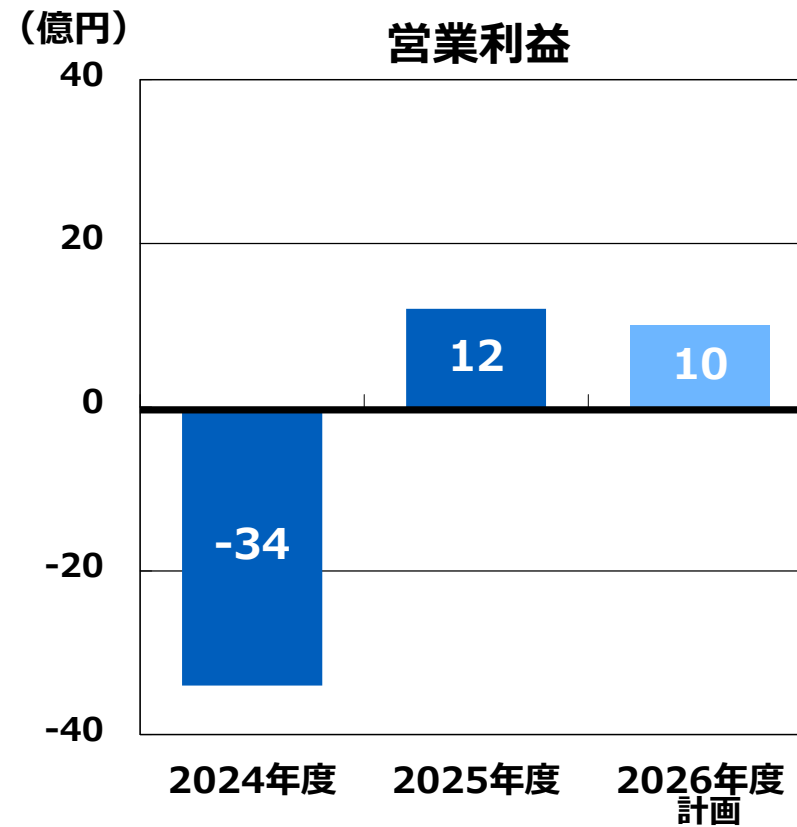
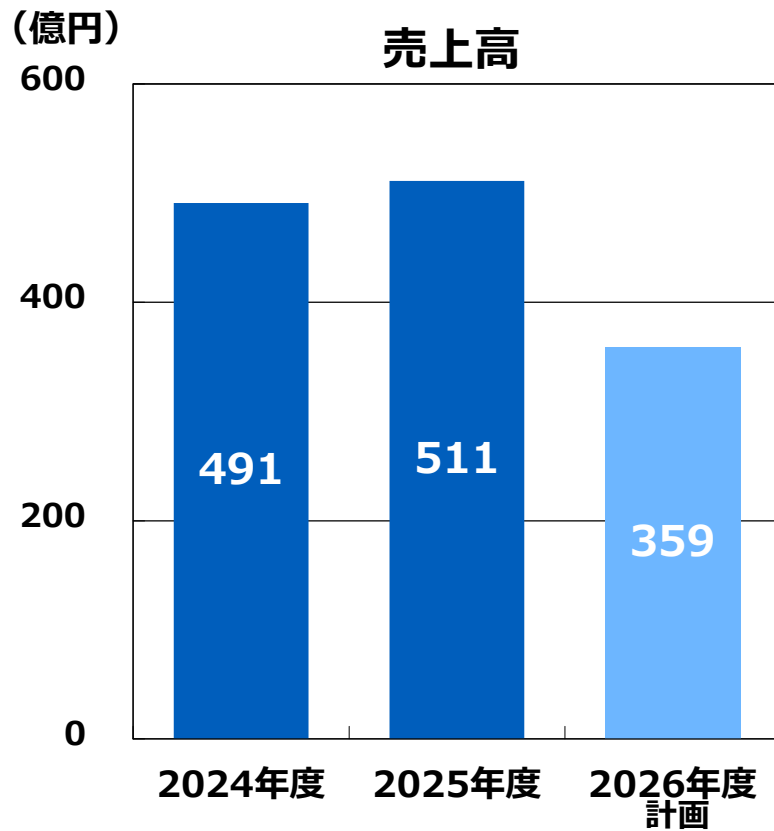
地域別売上高・営業利益（欧州）

- 売上高は、得意先の増産影響はあるものの、金型の売上減少等により、減収を計画
- 営業利益は、操業度および減価償却費の改善等により、黒字に転換を計画



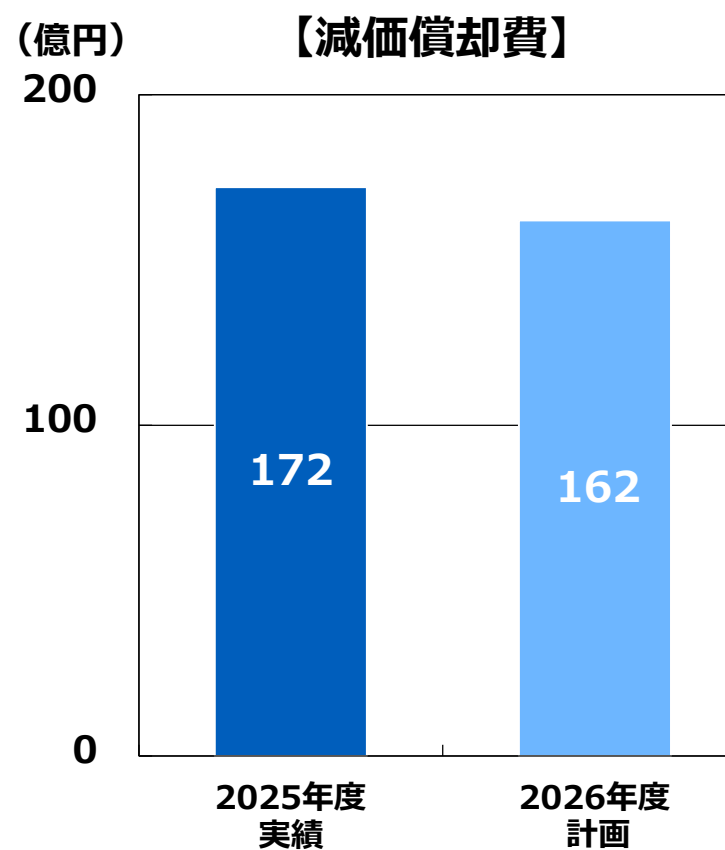
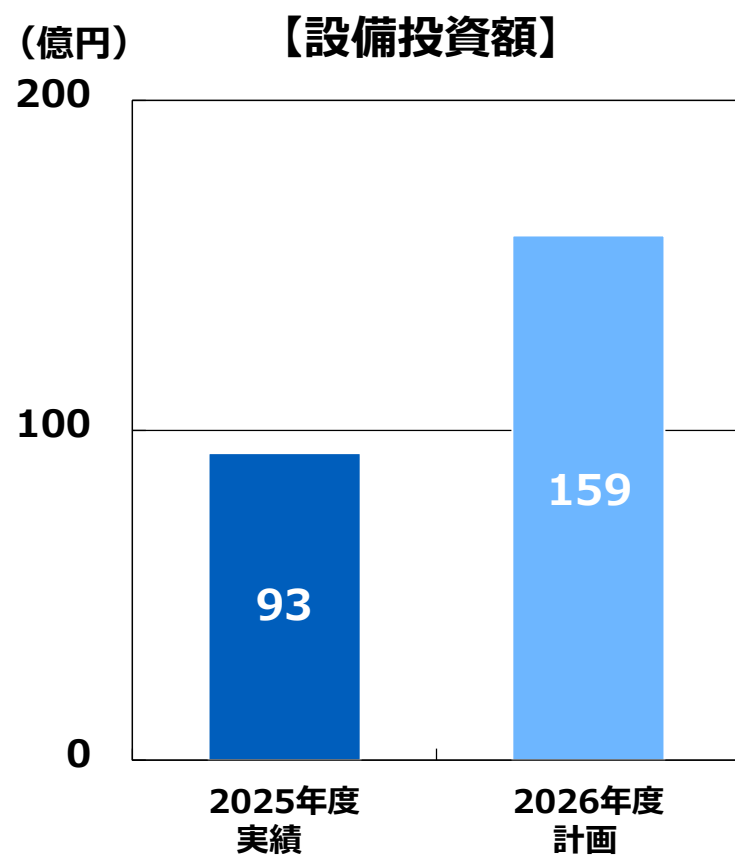
地域別売上高・営業利益（アジア）

- 売上高は、拠点の閉鎖および金型の売上減少等により、減収を計画
- 営業利益は、売上減少の影響等により、減益を計画



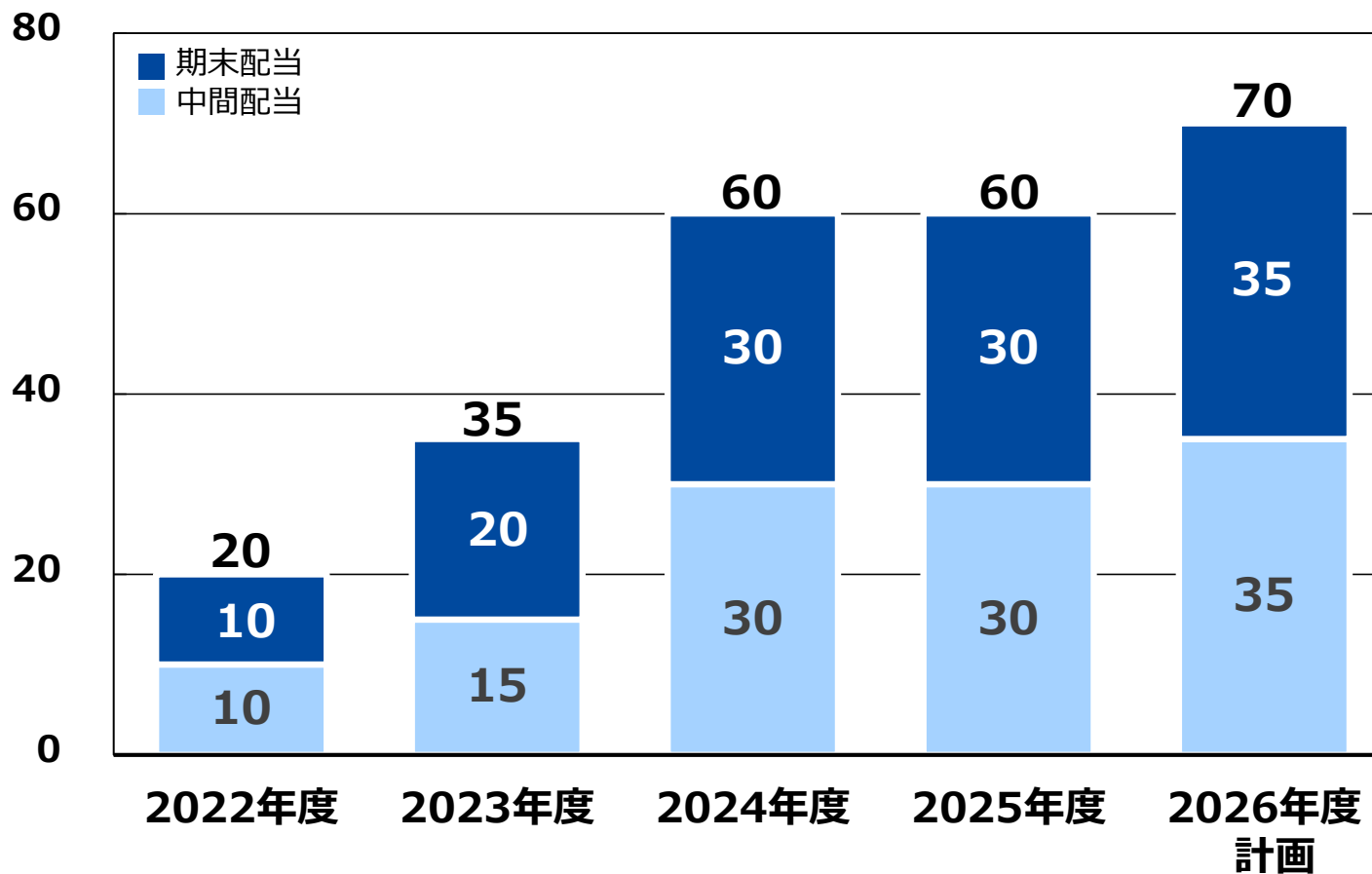
設備投資額・減価償却費計画

- 設備投資額は、前年度比66億円増加
- 減価償却費は、前年度比10億円減少



- 2026年度は、1株当たり70円を計画

(円/株)



2026-2028年度 中期経営方針

当社を取り巻く外部環境は、引き続き不透明感が一層高まっている。
地政学リスクの高まりに加え、グローバルでのEVシフトの鈍化に伴う、各得意先の
商品計画・投資計画の大幅な見直しなど、将来を予見することが困難な状況にある。

こうした状況を踏まえ、2028年度以降の計画については不確定要素が大きいため、
定量的な目標は2026年度・2027年度とする。

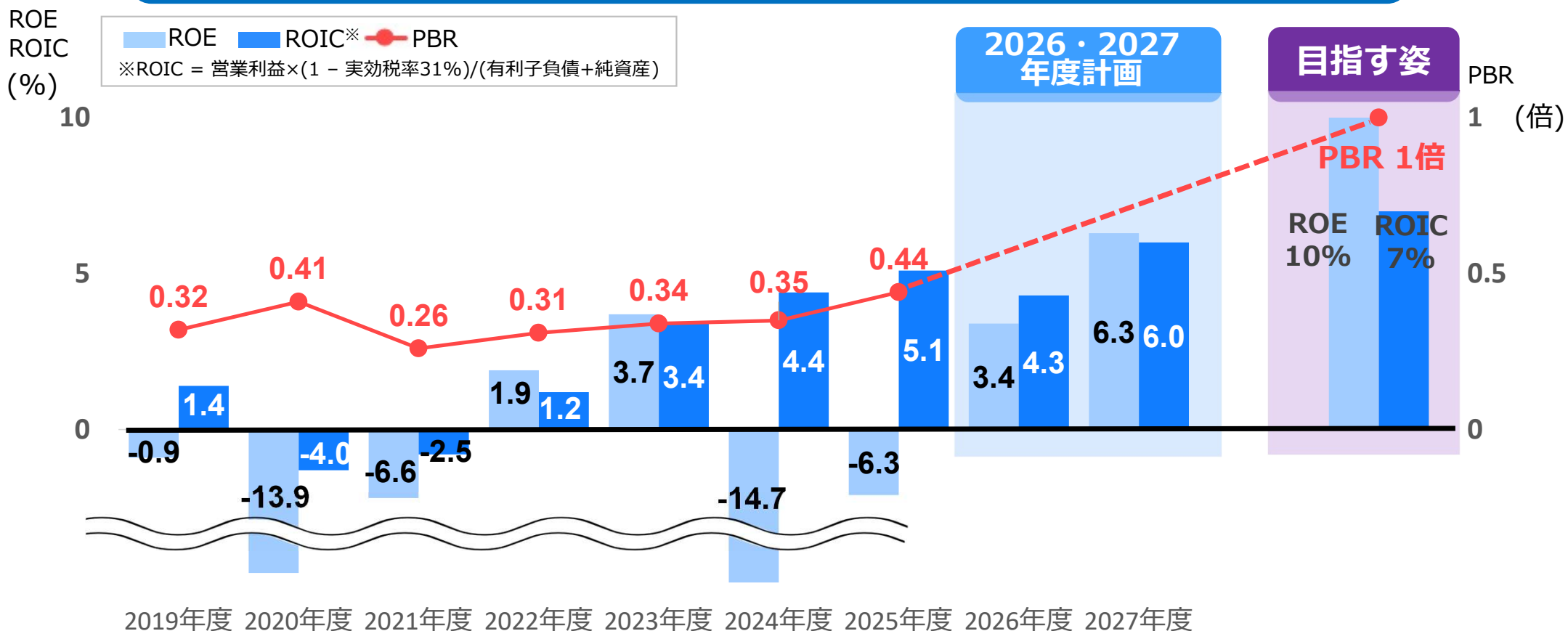
2026年度・2027年度は、構造改革の完遂を踏まえ、新商品・新分野に向けた戦略的
技術開発と拡販活動を加速する。

- 1. 現状分析**
 - 2. 方針と目標**
 - 3. 取り組む施策**
-

- 1. 現状分析**
 2. 方針と目標
 3. 取り組む施策
-

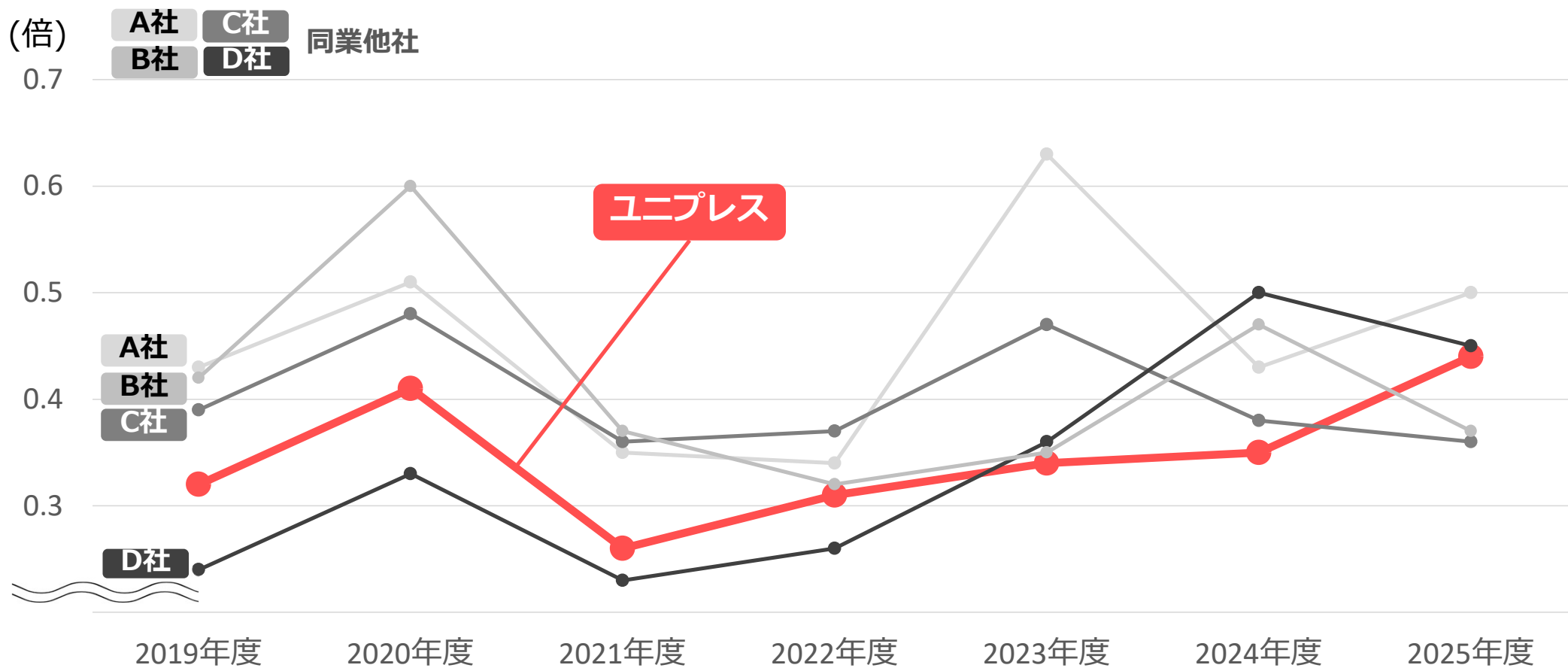
ROE・ROIC・PBRの推移

- 本業の収益力強化が進み、ROICは改善基調
- 生産体制見直しにともなう減損損失が響き、ROEはマイナス



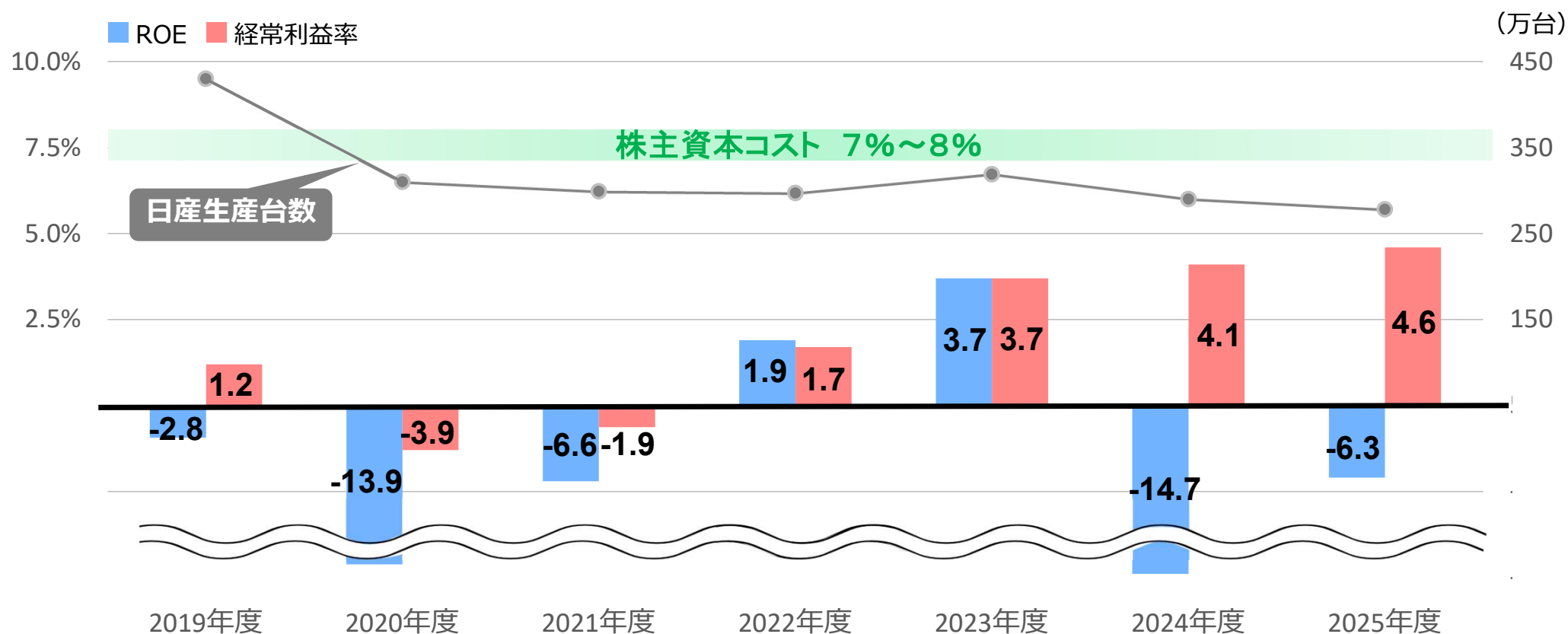
PBR同業他社比較

同業他社の中でも、当社のPBRは着実に改善している



株主資本コストとROEの関係

- 2019年度以降、生産台数は大幅に減少も、経常利益は着実に改善
- 目指すROE水準に向け、引き続き収益力の向上と自己資本をコントロール



1. 現状分析
 - 2. 方針と目標**
 3. 取り組む施策
-

環境認識

自動車メーカー動向の変化

- 中国自動車メーカーの急速なグローバル展開
- EV化の鈍化による各自動車メーカー商品戦略の見直し

経済動向の不透明感

- 地政学リスクの高まり
- エネルギー価格の高騰に端を発したインフレ懸念

2026年度

2027年度以降

構造改革

最適な生産体制の構築

スマート化

コスト競争力の向上

成長戦略

戦略的技術開発の充実・加速

事業・財務面だけでなく、各ステークホルダーに対する取り組みを強化

PBR向上

ROEの向上

事業戦略

- 最適な生産体制の構築
- スマート化によるコスト競争力の向上
- 戦略的技術開発の充実・加速

財務戦略

- 生産数量の変化に強い収益体質
- 事業構造に最適な自己資本

PERの改善

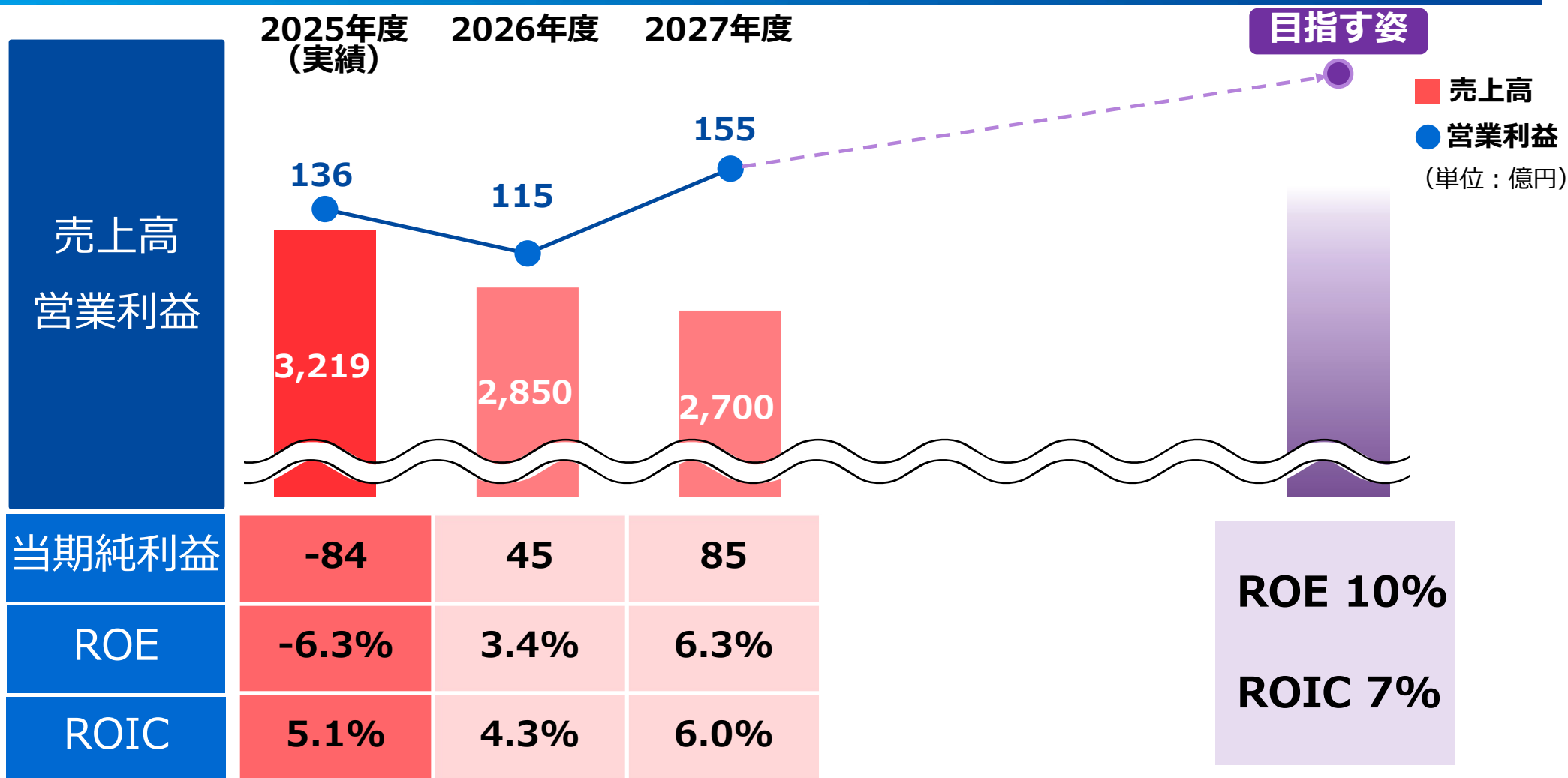
株主還元の充実

- DOEを指標とした配当政策
- 機動的な自己株式の取得

成長性への期待

- サステナビリティ経営の推進
- 投資家との対話強化

2026-2028年度 中期経営方針経営指標と目標



1. 現状分析
 2. 方針と目標
 - 3. 取り組む施策**
-

構造改革

最適な生産体制の構築

生産体制を抜本的に見直し

スマート化

コスト競争力の向上

「スマート工場」
「スマート開発」実現
への取り組みを強化

成長戦略

戦略的技術開発の充実・加速

既存商品の付加価値向上に加え、新商品や新分野に向けた技術開発を加速

【構造改革】最適な生産体制の構築

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

成長性への期待



生産体制を抜本的に見直し

- 中国拠点数： 7 ⇒ 3
- タイ拠点数： 1 ⇒ 0
- ブラジル拠点数： 1 ⇒ 0

●：継続する拠点 ✳：削減もしくは削減予定の拠点

黒字：実施完了

赤字：今後実施予定

＜中国拠点：再編＞

生産3拠点（広州、鄭州、武漢）を広州中心に集約中

・武漢の生産を広州に移管（25年11月）

・**鄭州の生産を広州に移管（26年度中に移管予定）**

ホットスタンプ合併事業

・ホットスタンプ合併事業を解消し、100%子会社化（25年10月）

・生産2拠点（広州、鄭州）を広州に集約（26年2月）

金型事業分社化（25年6月）

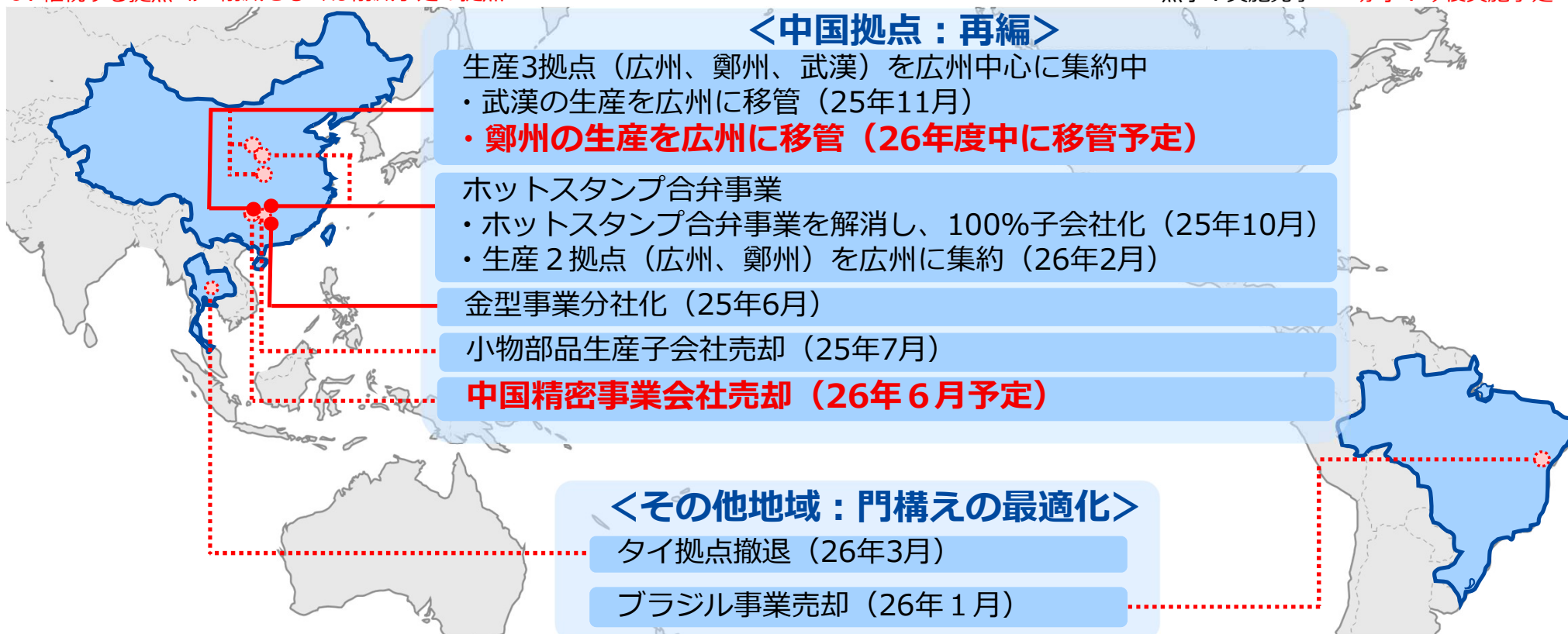
小物部品生産子会社売却（25年7月）

中国精密事業会社売却（26年6月予定）

＜その他地域：門構えの最適化＞

タイ拠点撤退（26年3月）

ブラジル事業売却（26年1月）



【構造改革】 最適な生産体制の構築

事業戦略

株主還元の充実

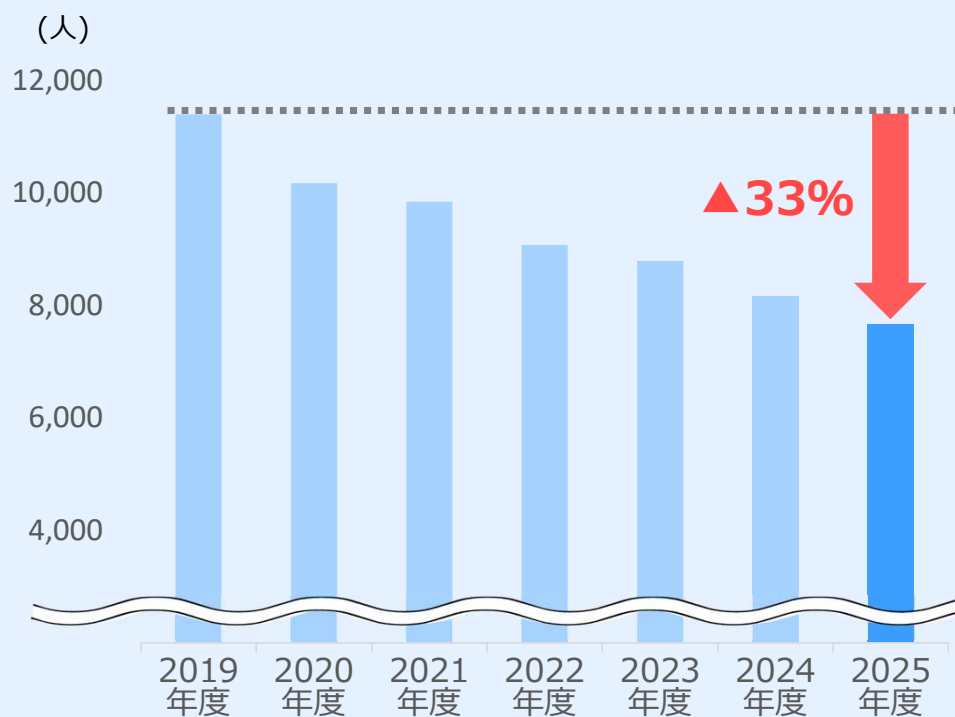
財務戦略

成長性への期待

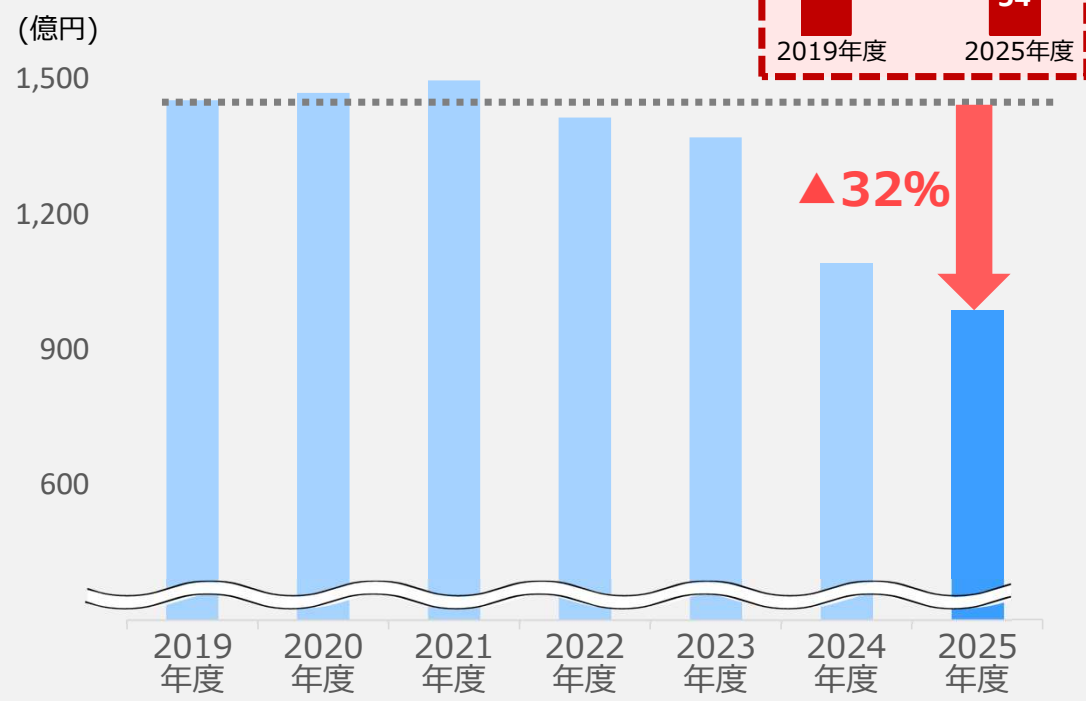


生産拠点の集約を推進し、損益分岐点を改善

<全拠点従業員総数>



<有形固定資産>



【スマート化】コスト競争力の向上 (スマート工場)

事業戦略

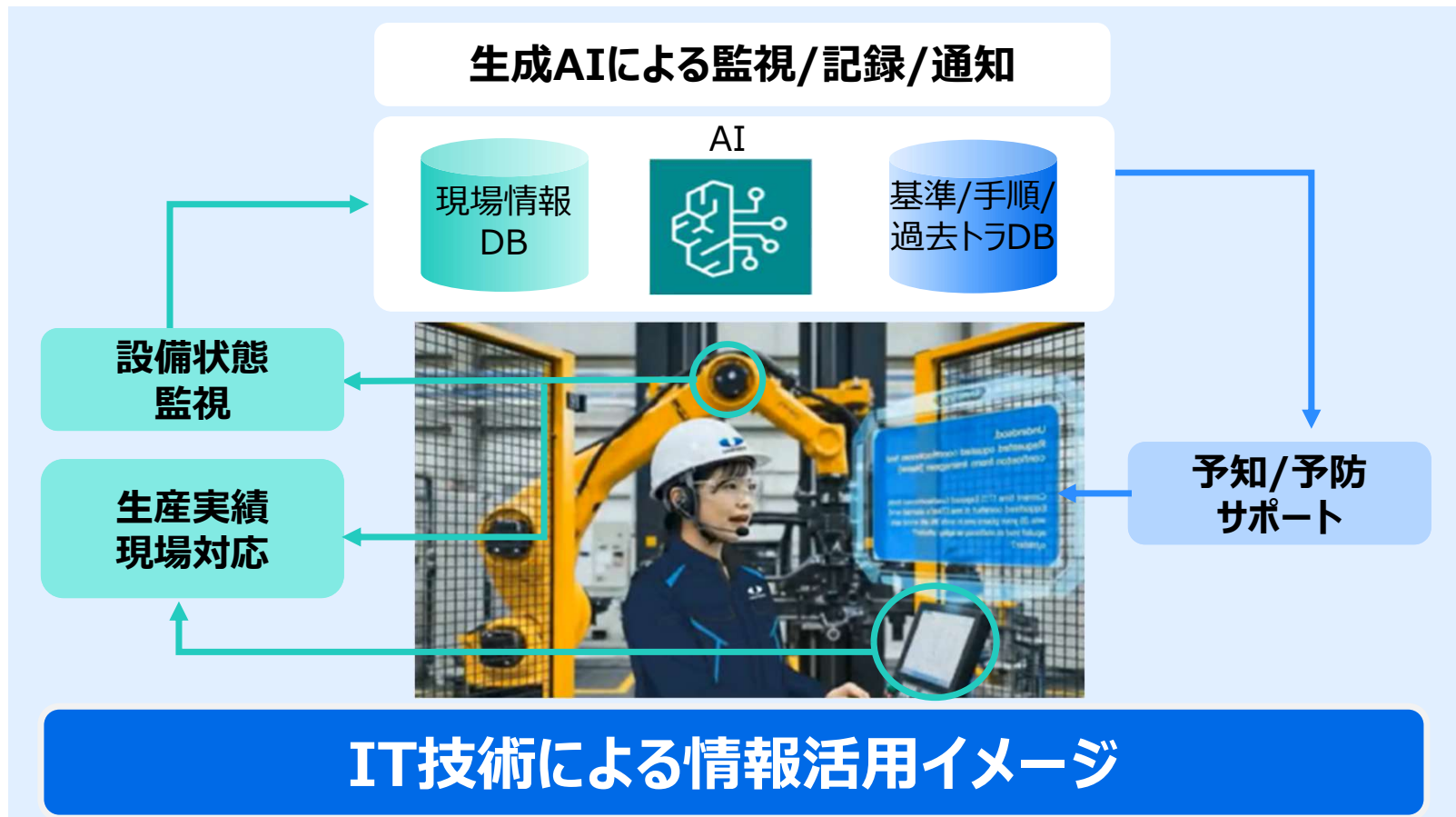
株主還元の実現

財務戦略

成長性への期待



価値ある現場情報を蓄積し、IT技術を活用したスマート化の実現



【成長戦略】 戦略的技術開発の充実・加速

事業戦略

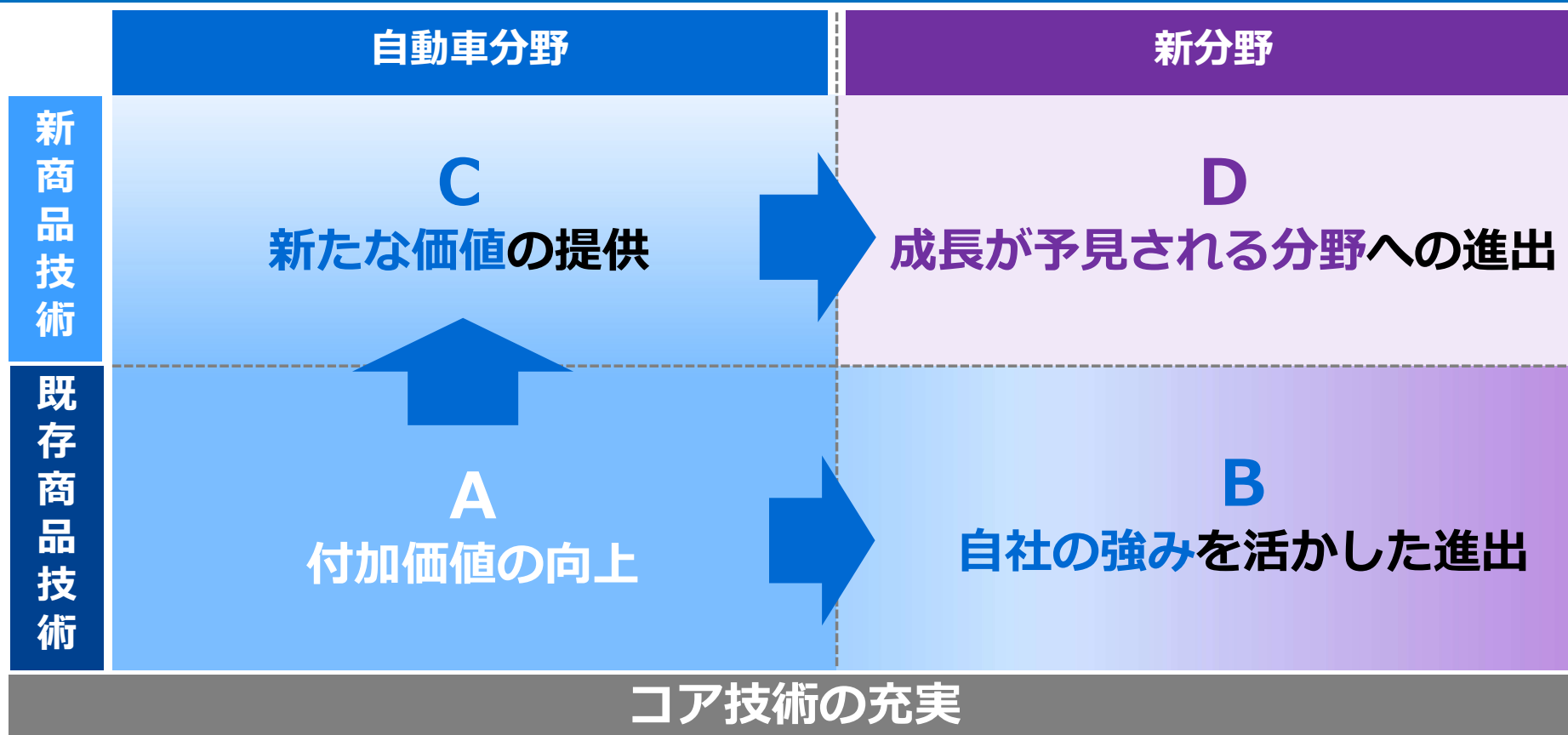
株主還元の充実

財務戦略

成長性への期待



基盤となるコア技術の一層の充実により、既存商品の付加価値を高めるとともに、将来の新品・新分野を見据えた戦略的技術開発を推進



【成長戦略】 戦略的技術開発の充実・加速

事業戦略

株主還元の充実

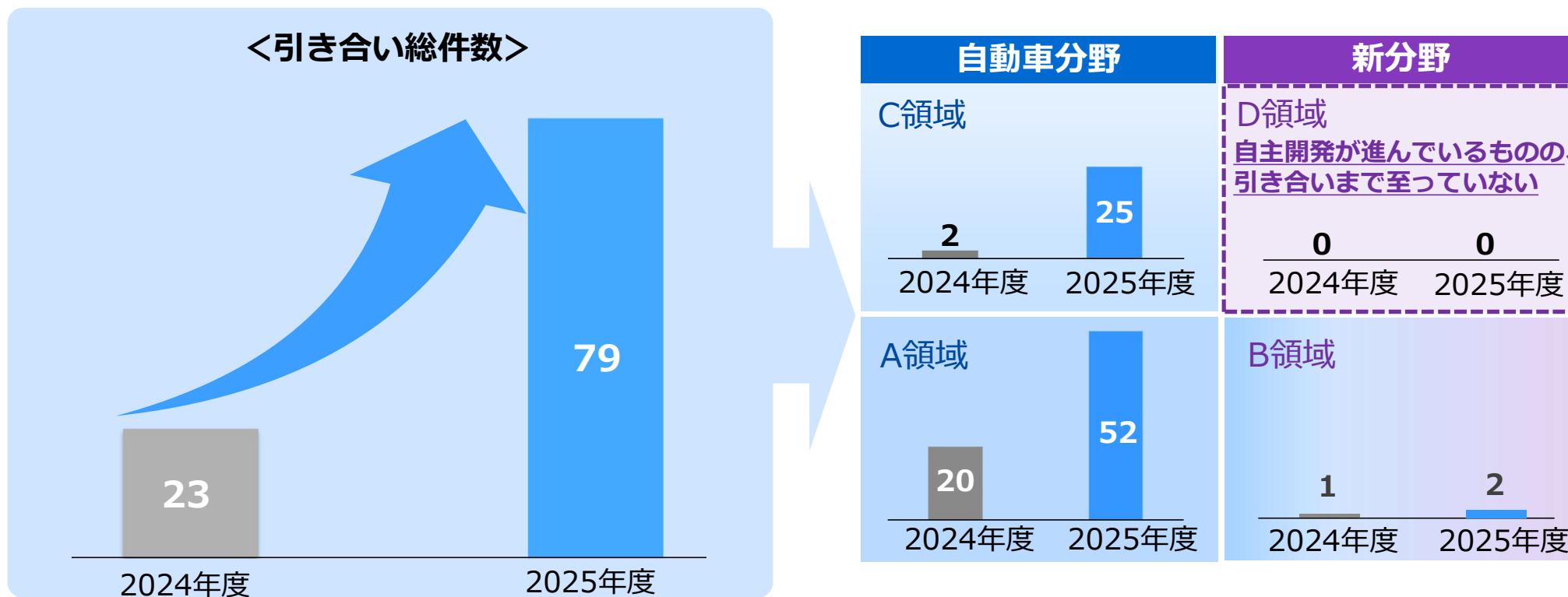
財務戦略

成長性への期待



- 自動車分野：低コスト化、軽量化、好調なHEV構成部品を中心に引き合いを拡大中
- 新分野：件数増加に向け、市場調査と商品化開発の取り組みを強化する

引き合い件数 拡大状況



【成長戦略】 戦略的技術開発の充実・加速

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

成長性への期待



<引き合い獲得状況> 自動車分野：【A】領域

車体部品

・既存部品のHOT一体化



・HOT焼分け技術適用部品



・冷間1.5GPa材 適用部品



・小Rバスタブ
(バッテリーケース等)



・アルミプレス部品

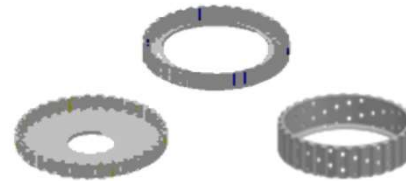


・HOT2.0GPa材適用部品

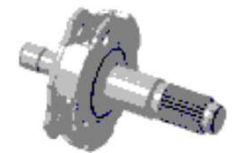


精密部品

・ハガタ部品



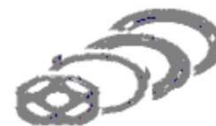
・キャリア部品



・プレート部品



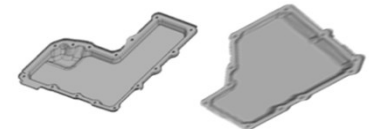
・ダンパー



・ピストン部品



・インバーターカバー



【成長戦略】 戦略的技術開発の充実・加速

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

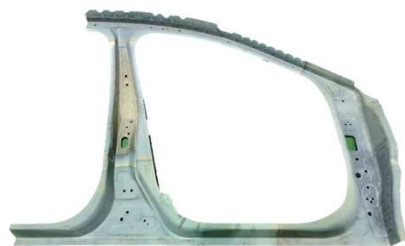
成長性への期待



<引き合い獲得状況> 自動車分野：【C】領域

車体部品

・ホットスタンプ 大型一体化部品
(リアフレーム, ドアリング, フロントフロア)



・マルチマテリアル部品



精密部品

・長物バスバー



・ドライブシャフト



・シートアジャスタープレート



樹脂部品

・大型フルフラットカバー
(発泡3層化シート)



・吸音アンダーカバー
(吸音シート)



・吸音プロテクターフェンダー
(吸音シート)



【成長戦略】 戦略的技術開発の充実・加速

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

成長性への期待



＜引き合い獲得状況＞ 新分野：【B】領域

空調機分野	シート分野	汎用モビリティ分野
 <p>コンプレッサー部品</p>	 <p>シートフレーム部品</p>	 <p>ギア部品 クラッチ部品</p>

【成長戦略】 戦略的技術開発の充実・加速 (コア技術開発による将来目指す姿)

事業戦略

株主還元の充実

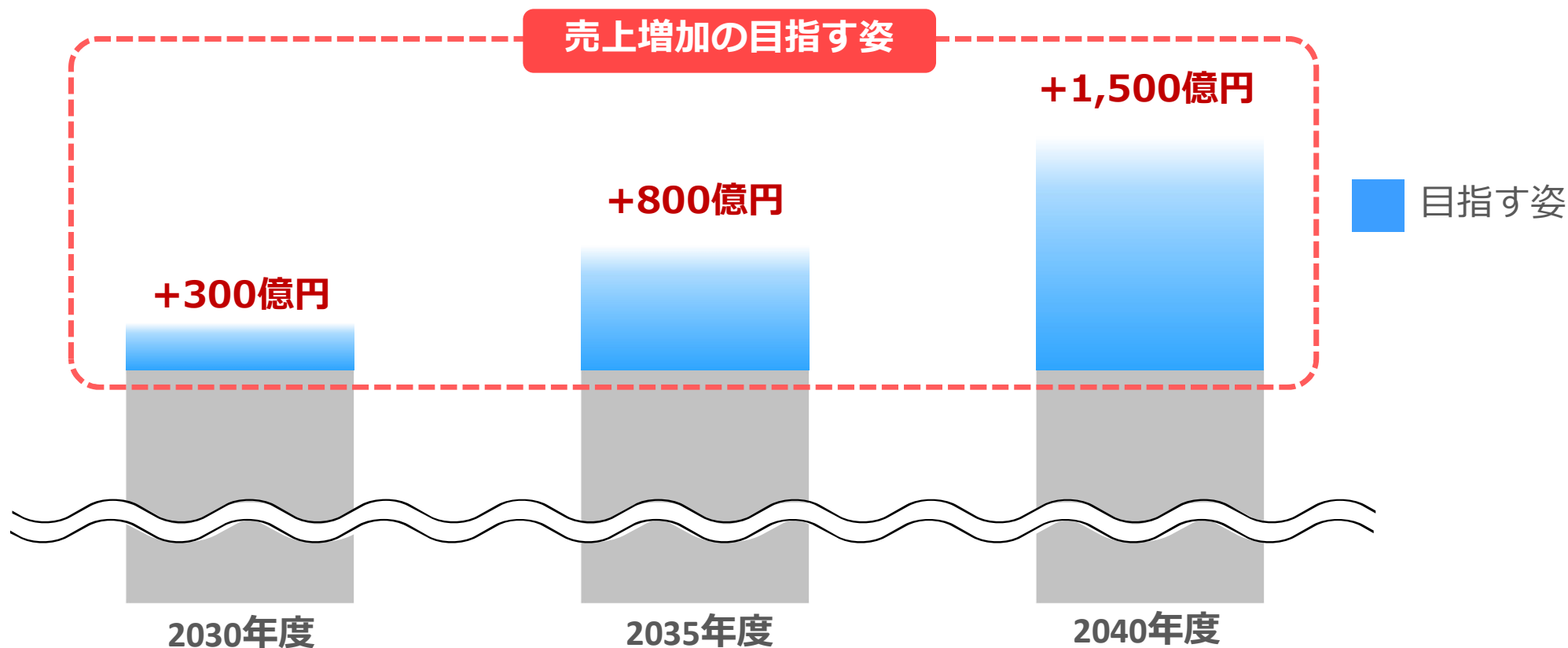


財務戦略

成長性への期待

53

コア技術の開発を加速させ、その技術を活用した新商品の展開を通じて
付加価値向上や販路を拡大し、それに伴い売上の向上を図る



【成長戦略】 戦略的技術開発の充実・加速 (コア技術開発による将来目指す姿)

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

成長性への期待



2025年度 量産開始車種

日産



リーフ (日本・イギリス)



ルークス (日本)



セントラ (メキシコ)



ヴァーサ (メキシコ)



ローグPHEV (日本)



シルフィー (中国)



N6 (中国)



NX8 (中国)



アルピーヌ A390
(フランス)



カングーE-TECH
(フランス)

ルノー



ダスター (インド)

ホンダ



N-ONE e: (日本)

三菱



エクリプスクロス
(フランス)



デリカミニ/
eKスペース (日本)

マツダ



CX-5 (日本)

スズキ



フロンクス (インドネシア)

収益体質の強化と適切な自己資本の水準

事業戦略

株主還元の充実

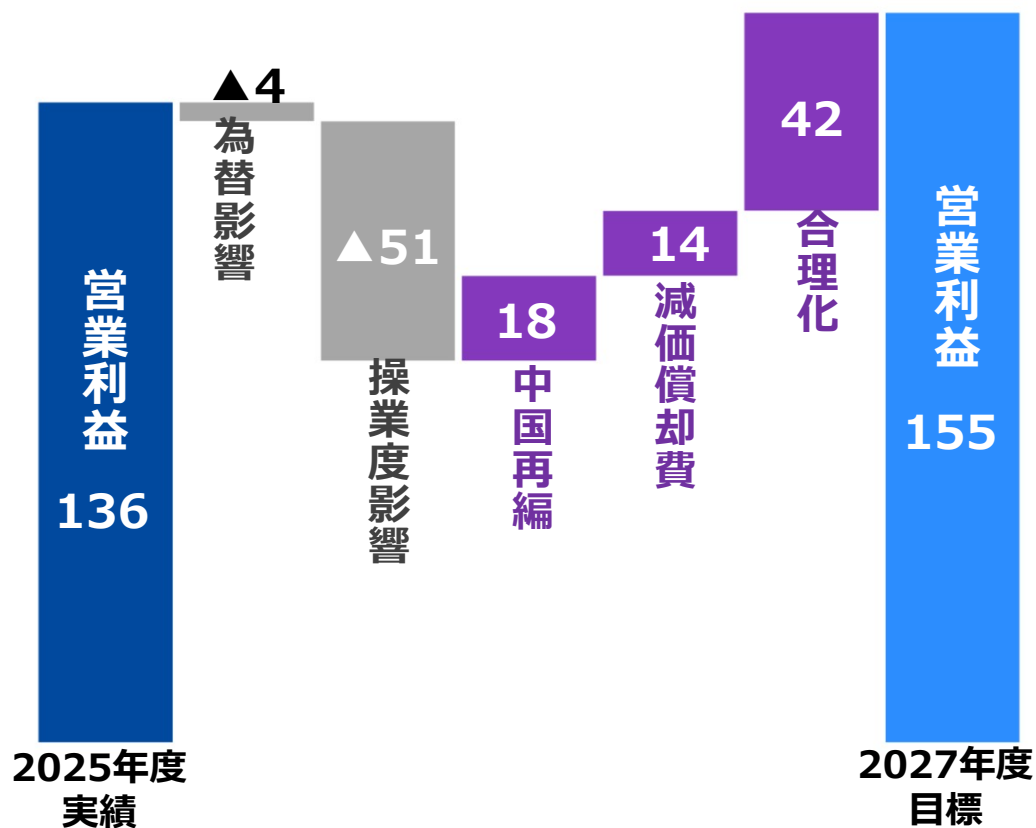
財務戦略

成長性への期待



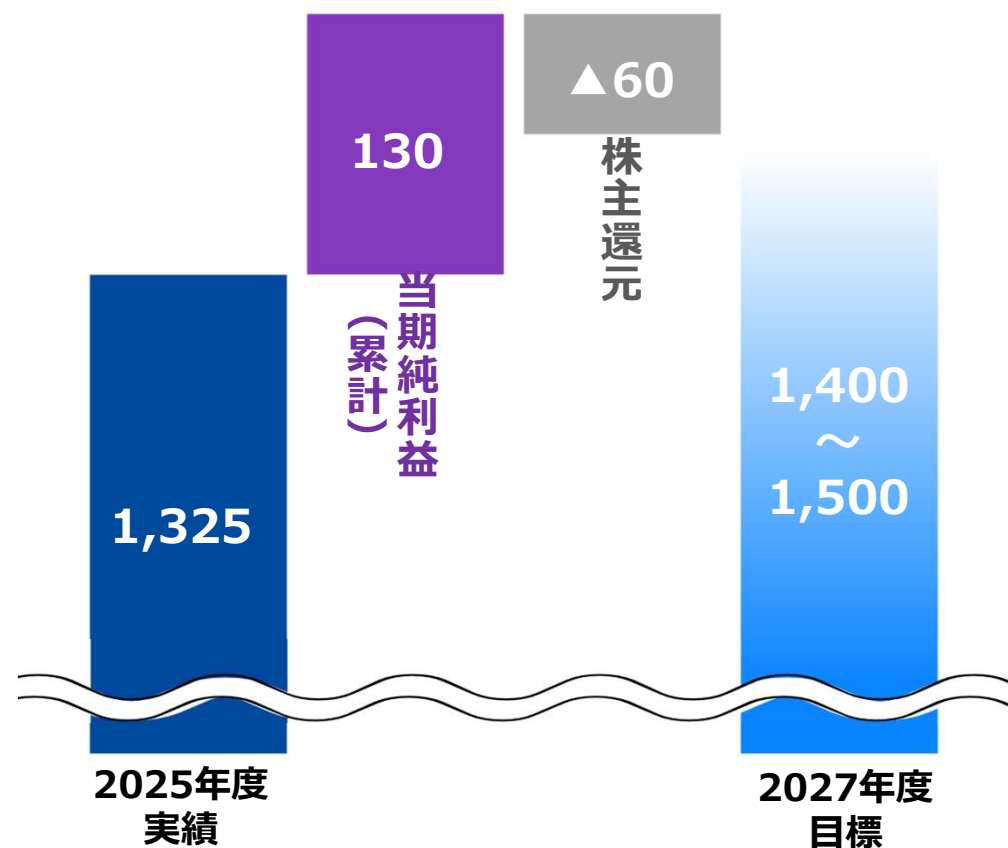
生産数量の変化に強い収益体質

単位：億円



事業構造に最適な自己資本

単位：億円



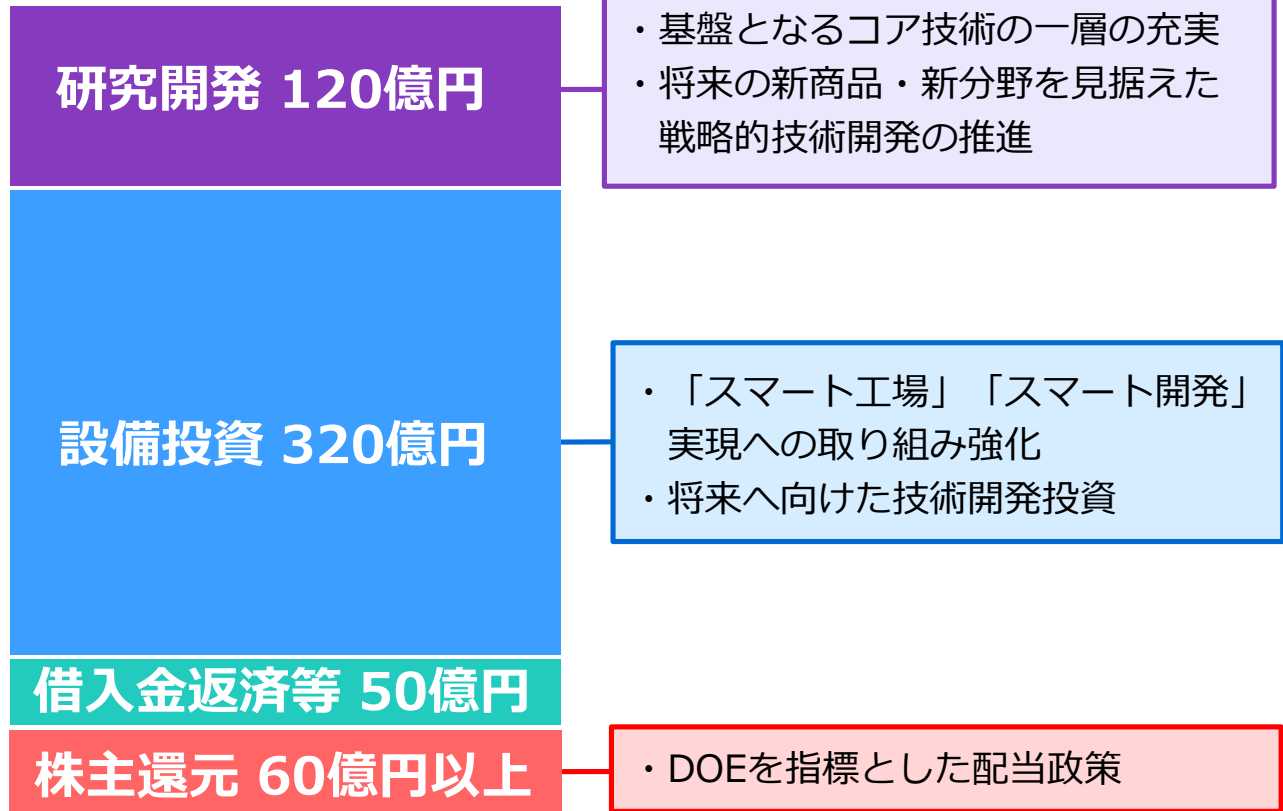
キャッシュアロケーション

■ 2026年度-2027年度2年間累計

<キャッシュイン>



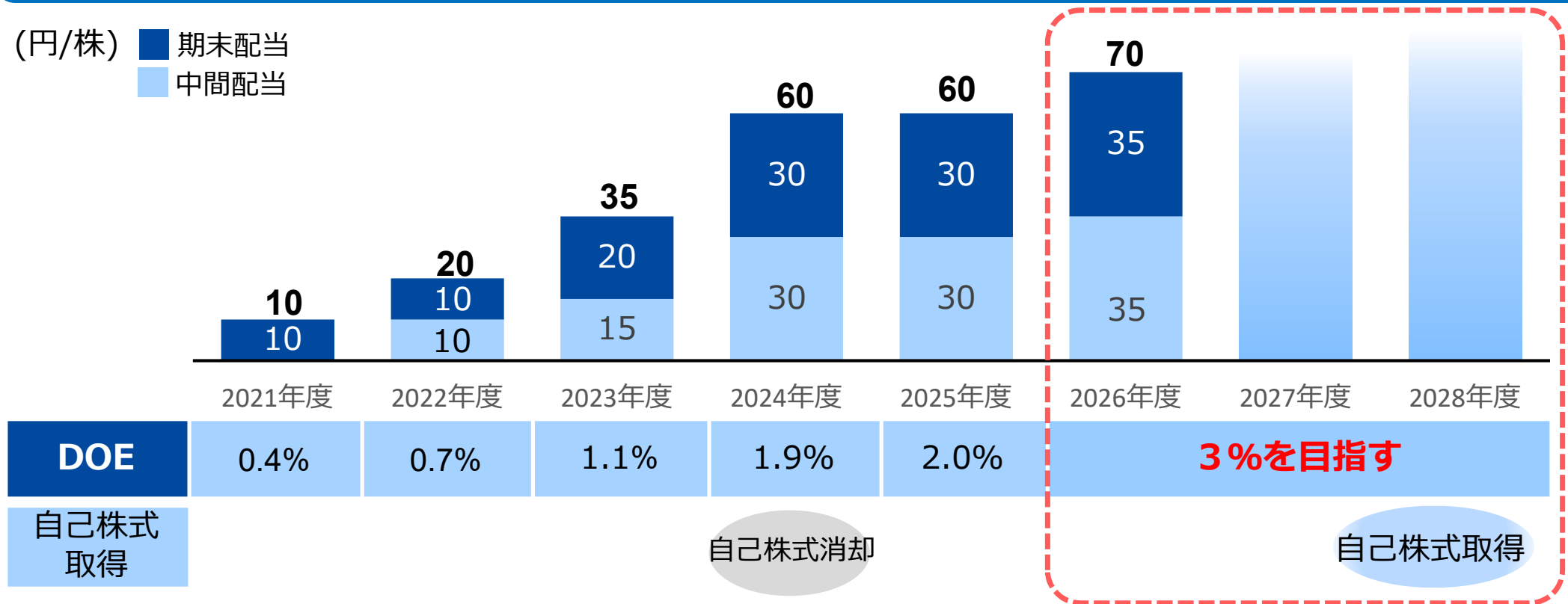
<キャッシュアウト>



株主還元の充実

- 配当は引き続きDOEを指標とし、中期的に3%を目指す
- 適切な自己資本の水準を維持しつつ、配当の強化を軸に自己株式取得も選択肢

(円/株) ■ 期末配当
■ 中間配当



経済的な価値の創出に加え、社会的な価値の創出を目指し、「Well-being」「ESGの取り組み」「カーボンニュートラル」に取り組んでいる

Well-being

・ 人的資本を強化

- ✓ キャリア充実の施策実施
- ✓ 女性管理職比率の更なる向上
- ✓ 心理的安全性向上
(全管理職向け研修の実施等)
- ✓ ヘルスリテラシー向上

ESGの 取り組み

・ 資源の有効活用

- ✓ リサイクル材の活用拡大
- ✓ 産業廃棄物リサイクル率向上
- ・ **社会貢献活動の推進**
 - ✓ 環境保全、次世代育成、
地域活動を中心に活動を推進
- ・ **コンプライアンスの強化**

カーボン ニュートラル

・ カーボンニュートラルの推進

- (2050年度 事業活動で排出する
GHG 排出量実質ゼロ)
- ✓ 環境貢献製品の開発推進
- ✓ 再生可能エネルギーの活用
- ✓ 省エネルギー活動の推進

サステナビリティ経営の推進 (Well-being)

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

成長性への期待



人的資本への投資 Well-being経営

- ◆ キャリア ◆ 人間関係 ◆ 経済的
- ◆ 心身の健康 ◆ 地域社会

< 個人の成長 >

< 会社の成長 >

企業価値の向上

2025年度 主な取り組み

- ✓ 男性の育児休業取得促進
- ✓ 仕事と家庭を両立しやすい環境づくり
- ✓ 従業員の健康増進に向けた取り組みを強化
(卒煙サポーター制度の開始、女性の健康セミナーの配信や健康関連休暇制度などを拡充)
- ✓ 女性社外取締役と女性社員との対話の機会創出
- ✓ 継続した賃金水準の引き上げ

社外評価



(2025年認定)



(2021年より連続6年認定)

サステナビリティ経営の推進 (ESGの取り組み)

事業戦略

株主還元の実現

財務戦略

成長性への期待



E (環境)

- ・プレス加工前の潤滑処理時に発生する汚泥をセメント原料として再資源化するとともに、梱包資材や粉体塗料のリサイクルを推進することで産業廃棄物リサイクル率を大幅に向上
- ・海外子会社を範囲に含め、すべての拠点でGHG（温室効果ガス）排出量の第三者認証を取得

G (ガバナンス)

- ・内部通報制度（外部窓口）をサプライヤーまで拡大し、サプライチェーン全体として、改正下請法、独禁法等の法令違反やハラスメント等の人権リスクの早期発見・救済措置ができる体制を整備
- ・自動車産業サイバーセキュリティガイドラインに沿った管理、監査の実施、サイバー事故発生時の事業継続計画の再整備により情報セキュリティ体制を強化

S (社会)

- ・森林や生物の保全活動をはじめ、国内の各拠点で多岐にわたる社会貢献活動を展開しており、2025年度は23件の取り組みを実施し、延べ500名の従業員が参加した



森林再生パートナー活動

- ・海外拠点においても、3つの重点分野「環境保全」「次世代育成」「地域活動」を定め、活動を実施



【環境保全】
植樹活動



【次世代育成】
子供向けレクリエーション



【地域活動】
フードバンク

サステナビリティ経営の推進 (カーボンニュートラル)

事業戦略

株主還元の充実

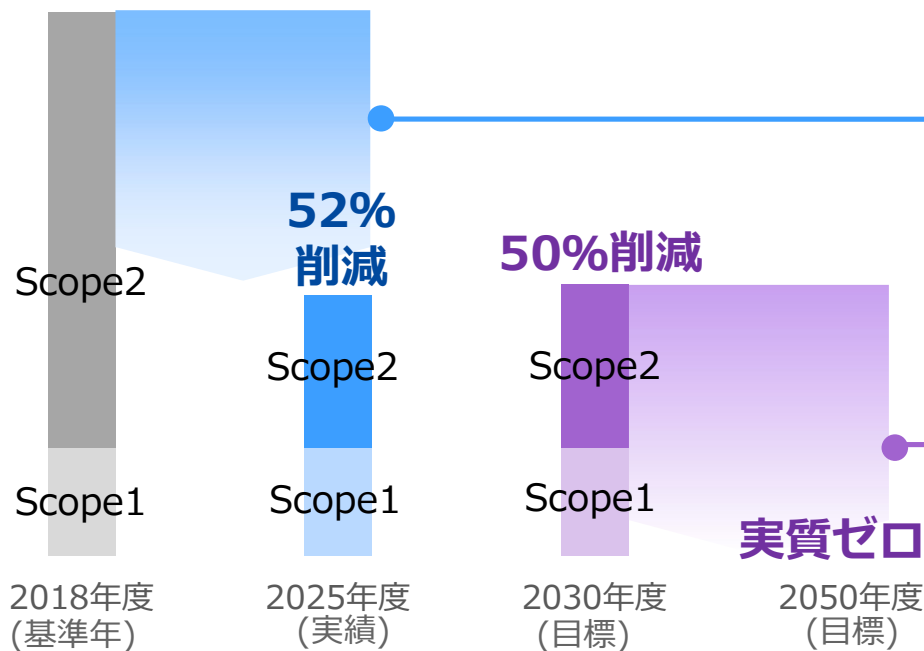
財務戦略

成長性への期待



取り組みの着実な推進および台数減少の影響により、GHG排出量50%削減を達成

- 【GHG（温室効果ガス）削減目標】
- ・ 2030年度 事業活動で排出するGHG排出量**50%削減**（2018年度比）
 - ・ 2050年度 事業活動で排出するGHG排出量**実質ゼロ**
 - ・ 2050年度チャレンジ サプライヤーとともにGHG排出量実質ゼロに取り組む



<取り組み>

- **太陽光発電導入の推進**
国内全拠点への導入が完了し、海外においても4ヶ国6拠点へ拡大
- **徹底した省エネルギー活動の実施**
生産設備の高効率化などを通じ、継続的な使用量削減を推進
- **CO₂フリー電力への転換強化**
再生可能エネルギー由来電力の活用を拡大

<今後の取り組み>

- **省エネルギーおよびエネルギー転換を一層強化**
- **カーボンオフセットの活用**
- **再生可能エネルギーの海外拠点への展開を加速**

CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」において最高位のA評価を取得

- 「サプライヤーエンゲージメント評価」とは、サプライチェーンにおける気候変動問題への企業の取り組みを評価する指標である。
サプライヤーに働きかけて気候変動対策に取り組むことにより、カーボンニュートラル実現に向けての貢献度が高い企業を選定される。

<取り組み>

- サプライヤー向けミーティングを開催し、気候変動対策をはじめとする自社のサステナビリティへの取り組みを共有するとともに、サプライチェーン全体での取り組みを推進
- Scope1・2に加え、Scope3の一部について第三者保証を取得し、温室効果ガス排出量データの信頼性・透明性を向上



日産より車体部品の品質などに関する取り組みにおいて
高く評価され、関連する賞を受賞した

<欧州日産> Regional Quality Award

日産が年間を通して品質全般において貢献した取引先に
贈呈される最上位の賞である。



左から2番目 日産自動車株式会社
AMIEO地域 Chairperson
マッシミリアーノ・メッシーナ氏
右から2番目 ユニプレスイギリス
Managing Director 山中 光伸氏

<東風日産> 最優秀サプライヤー賞

品質、価格、納期、開発、サービス
全てにおいて最も優れたサプ
ライヤーに贈呈される賞である。



<鄭州日産> アフターセールス賞

サービス部品の要求に対して納期
通り品質の良い製品を納入したサ
プライヤーに贈呈される賞である。



投資家との対話強化

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

成長性への期待



64

投資家の皆さまとの対話に加え、実際の生産現場をご覧いただくことで、
当社の技術力や取り組みへの理解をより深めた

2025年度取り組み

● 株主・投資家と積極的な対話を行い、得られた知見を取締役会へフィードバック

	スピーカー	回数
決算説明会	代表取締役社長、財務担当役員、技術担当役員、工場・生産担当役員	2回
機関投資家・アナリストとの個別対話	財務担当役員、IR担当役員	6 7回
議決権行使担当者等との個別対話	IR担当役員	8回

● 機関投資家・アナリスト向けに、ユニプレス九州工場見学会を実施

- ✓ 当日は機関投資家・アナリスト13名にご参加いただき、ユニプレス九州の概要説明に続き、圧造・組立工場やホットスタンプライン、自動化設備等をご見学いただきました。
- ✓ コイル材からブランキング、プレスまでの一貫生産体制や、リアルタイム監視による稼働ロス低減など、生産性向上に向けた取り組みに加え、自動搬送・自動倉庫の取り組みをご覧いただき、理解を深めていただきました。





プレスのかで、未来にプラス。

「IR情報メール配信サービス」のご案内

ユニプレスの最新情報をメールでお知らせします。ぜひご登録下さい。

スマートフォンから
二次元コードを読み
取って登録



パソコンから

ユニプレスWEBサイトトップページのバナーをクリック



前提為替レート

参考

(円)

	2024年度 通期		2025年度 通期		2026年度 計画見通し
	期中平均	期末	期中平均	期末	
米ドル	152.60	149.53	151.10	159.93	145.00
英ポンド	194.72	198.91	197.99	211.41	190.00
ユーロ	164.38	164.86	169.51	184.26	165.00
メキシコペソ	8.26	7.77	7.83	8.70	7.90
人民元	21.13	21.67	20.88	22.37	20.50
インドルピー	1.81	1.75	1.71	1.71	1.60
バーツ	4.32	4.65	4.57	4.95	4.60
インドネシア ルピア	0.0096	0.0097	0.0091	0.0093	0.0085

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で当社が知りうる情報をもとに作成されたものです。
あくまでも現時点での将来予想であり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績はかかる予想と大きく異なる結果となることがあります。
それらのリスクや不確定要素のうち、主なものは以下のとおりですが、これらに限られるものではありません。

- ・ 主要市場（日本、米州、欧州、アジア等）の経済状況、消費動向、及び自動車業界得意先メーカー各社の業況・戦略等に伴う製品需給の急激な変動
- ・ 原油価格や鋼材価格の高騰に伴う当社製品製造コストへの影響
- ・ 為替相場の大幅な変動
- ・ 金融・資本市場における金利等の変動 など